

白糠町人口ビジョン

[令和6年度改訂版]

令和7年（2025年）3月

白 糠 町

目 次

第1章 人口ビジョンについて.....	1
1. 白糠町人口ビジョン（令和6年度改訂版）について	1
2. 全国・北海道の人口動向	2
第2章 白糠町における人口動向等.....	4
1. 総人口の推移について	4
2. 人口動態について	8
3. 世帯数について	19
4. 婚姻について	20
5. 地域経済の特性	22
6. 人口推移から見た課題	26
第3章 白糠町の将来人口シミュレーション.....	27
1. 将来人口の見通し	27
2. 将来人口シミュレーション	32
第4章 将来展望	36
1. 将来目標人口	36
2. 将来目標人口に基づく将来展望	38

第1章 人口ビジョンについて

1. 白糠町人口ビジョン（令和6年度改訂版）について

（1）策定の目的

国は人口減少対策として、平成26（2014）年に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これを受け、白糠町は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成27（2015）年10月に「白糠町人口ビジョン」及び「白糠町創生総合戦略」を策定し、令和2（2020）年3月には「白糠町人口ビジョン（令和元年度改訂版）」及び「第2期白糠町創生総合戦略」を策定しました。その後5年が経過し、人口を取り巻く環境の変化もあり、新たに「白糠町人口ビジョン（令和6年度改訂版）」を策定することとしました。本ビジョンは白糠町が今後目指すべき人口の将来展望を示すものであり、「第3期白糠町創生総合戦略」の前提となるビジョンです。

（2）対象期間と推計ベース

人口ビジョンは、総務省「国勢調査」による人口をベースとした分析、推計を行います。また、中間目標を2045年、長期目標を2065年とします。

（3）将来人口の推計について

将来人口の推計については、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）による『日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）』を参考としながら、独自の推計を行い、人口の将来展望を示します。

※技術的な注釈と用語の説明

・合計特殊出生率

ある期間（年間など）に生まれた子どもの数について母親の年齢（15～49歳）別に出生率を求め合計したもので、1人の女性が一生に生む子どもの平均数を計算したものです。

・掲載表の構成比について

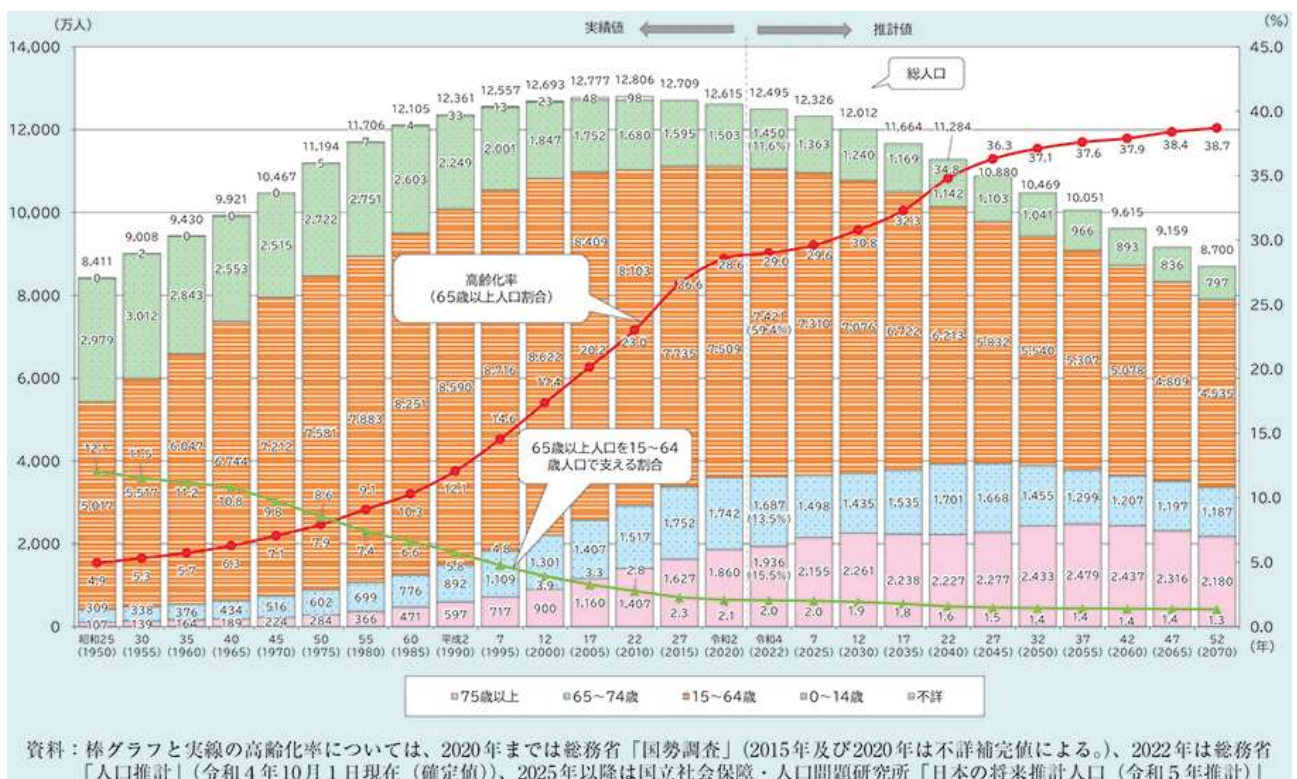
四捨五入の関係で、内訳とその合計が一致しない場合があります。

2. 全国・北海道の人口動向

(1) 国の人口推計

日本の総人口の最新データは令和2（2020）年となり、1億2,615万人となっています。

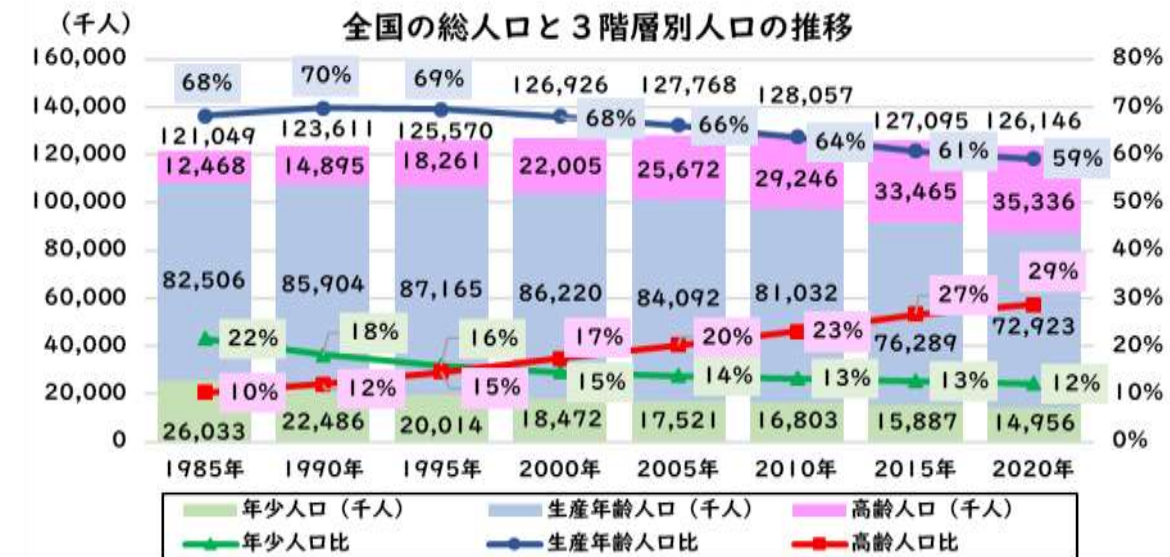
社人研による日本の将来推計人口（令和5年推計、出生中位・死亡中位）によると、2040年に1億1,284万人（0～14歳：1,142万人・10.1%、15～64歳：6,213万人・55.1%、65～74歳：1,701万人・15.1%、75歳以上：2,227万人・19.7%）、2060年に1億人を割る9,615万人（0～14歳：893万人・9.3%、15～64歳：5,078万人・52.8%、65～74歳：1,207万人・12.6%、75歳以上：2,437万人・25.3%）になると推計されています。



出典：内閣府「高齢白書」

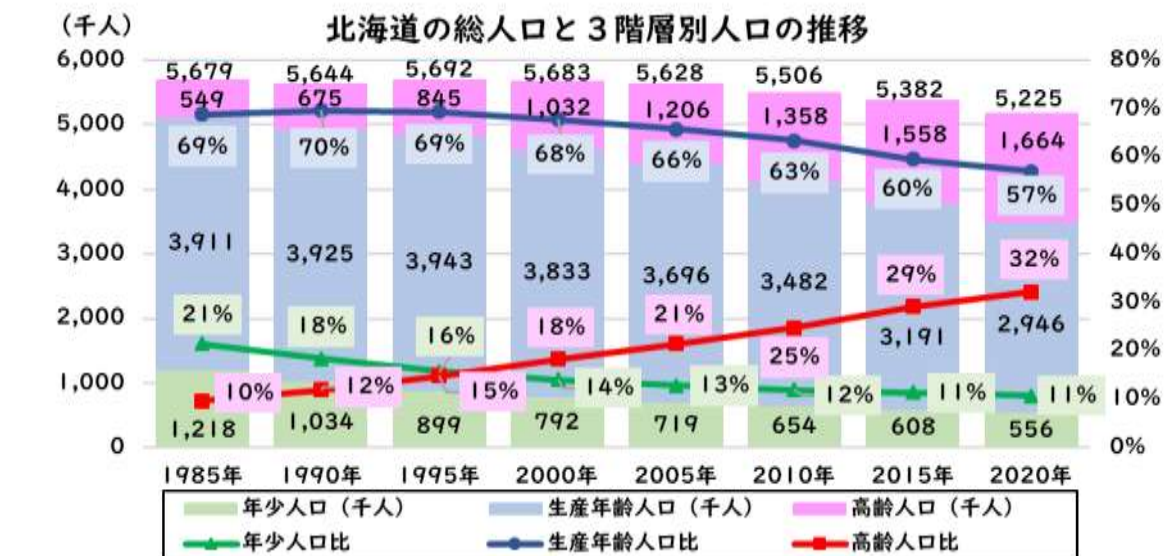
(2) 国と道の3階層別人口の推移

昭和60（1985）年からの35年間の全国や北海道の人口推移では、全国は平成22（2010）年に、北海道は平成7（1995）年に人口のピークを迎えています。全国も北海道も平成12（2000）年から年少人口よりも高齢人口の割合が高くなりました。北海道は全国と似たような傾向ではあるものの、少子高齢化の進展は全国よりも早い状況です。



全国	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
総人口 (千人)	121,049	123,611	125,570	126,926	127,768	128,057	127,095	126,146
年少人口 (千人)	26,033	22,486	20,014	18,472	17,521	16,803	15,887	14,956
生産年齢人口 (千人)	82,506	85,904	87,165	86,220	84,092	81,032	76,289	72,923
高齢人口 (千人)	12,468	14,895	18,261	22,005	25,672	29,246	33,465	35,336
年少人口比	21.5%	18.2%	16.0%	14.6%	13.8%	13.2%	12.6%	12.1%
生産年齢人口比	68.2%	69.7%	69.5%	68.1%	66.1%	63.8%	60.7%	59.2%
高齢人口比	10.3%	12.1%	14.6%	17.4%	20.2%	23.0%	26.6%	28.7%

※総人口は年齢不詳を含む、出典：総務省「国勢調査」



北海道	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
総人口 (千人)	5,679	5,644	5,692	5,683	5,628	5,506	5,382	5,225
年少人口 (千人)	1,218	1,034	899	792	719	654	608	556
生産年齢人口 (千人)	3,911	3,925	3,943	3,833	3,696	3,482	3,191	2,946
高齢人口 (千人)	549	675	845	1,032	1,206	1,358	1,558	1,664
年少人口比	21.4%	18.4%	15.8%	14.0%	12.8%	11.9%	11.4%	10.8%
生産年齢人口比	68.9%	69.7%	69.3%	67.8%	65.8%	63.4%	59.6%	57.0%
高齢人口比	9.7%	12.0%	14.9%	18.2%	21.5%	24.7%	29.1%	32.2%

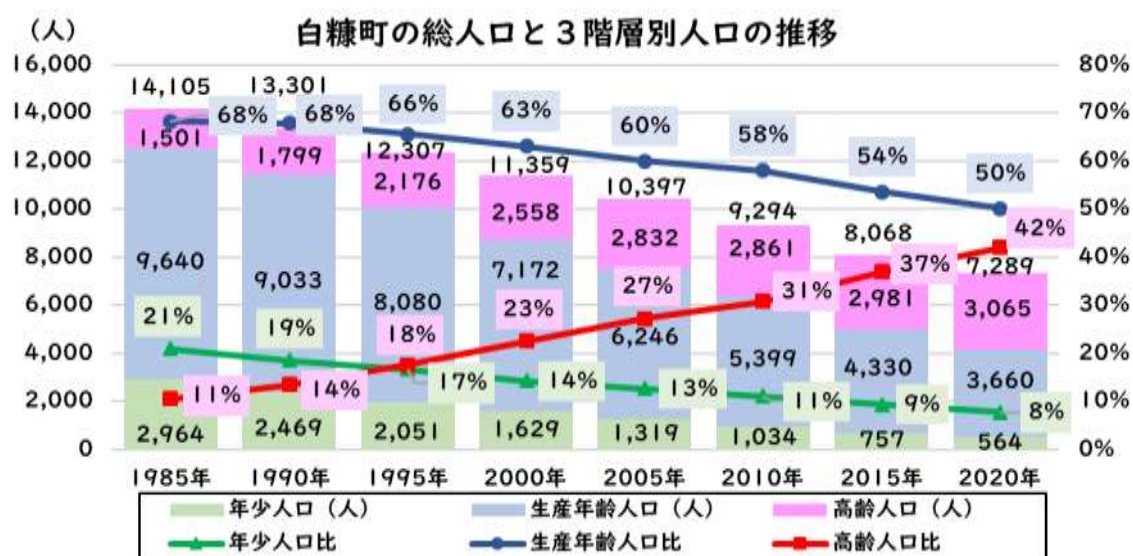
※総人口は年齢不詳を含む、出典：総務省「国勢調査」

第2章 白糠町における人口動向等

1. 総人口の推移について

(1) 3階層別人口の推計

昭和 60（1985）年からの 35 年間の人口推移では、昭和 60（1985）年から人口は減少傾向で推移しており、全国や北海道と比較して高齢人口比が高く、年少人口比が低い状況です（人口のピークは昭和 35（1960）年の 20,770 人）。平成 22（2010）年以降は高齢人口比が 5 % 以上増加しています。



白糖町	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
総人口 (人)	14,105	13,301	12,307	11,359	10,397	9,294	8,068	7,289
年少人口 (人)	2,964	2,469	2,051	1,629	1,319	1,034	757	564
生産年齢人口 (人)	9,640	9,033	8,080	7,172	6,246	5,399	4,330	3,660
高齢人口 (人)	1,501	1,799	2,176	2,558	2,832	2,861	2,981	3,065
年少人口比	21.0%	18.6%	16.7%	14.3%	12.7%	11.1%	9.4%	7.7%
生産年齢人口比	68.3%	67.9%	65.7%	63.1%	60.1%	58.1%	53.7%	50.2%
高齢人口比	10.6%	13.5%	17.7%	22.5%	27.2%	30.8%	36.9%	42.0%

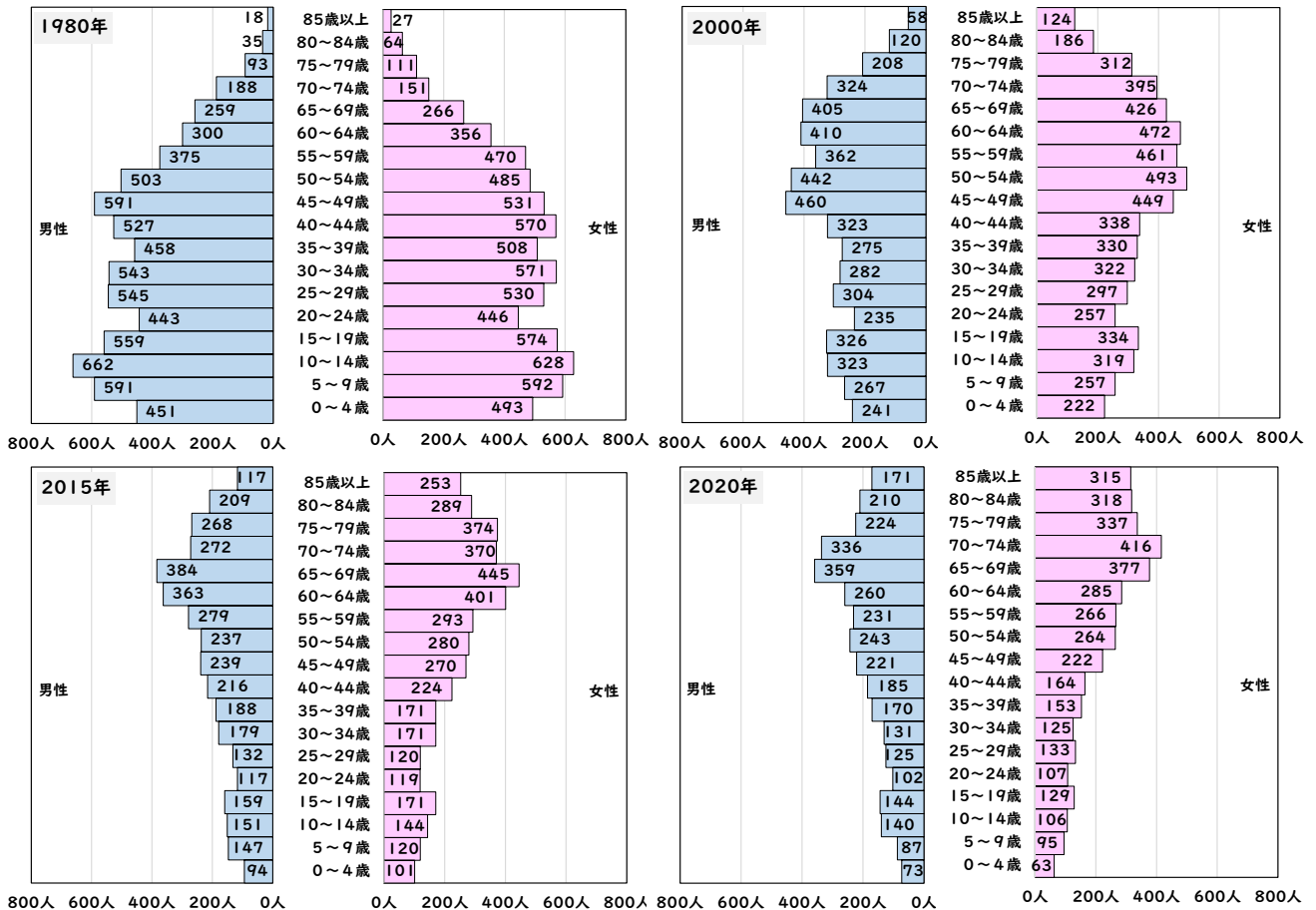
※2015 年と 2020 年は年齢不詳補完値、出典：総務省「国勢調査」

(2) 人口構成の変遷

白糠町は昭和 55（1980）年にはつりがね型に近い形であったものの、平成 12（2000）年以降にはつば型に変化しています。

令和 2（2020）年の 0～4 歳と 5～9 歳は 100 人未満となり、少子高齢化が進んでいます。

性・年齢別人口構成の変化



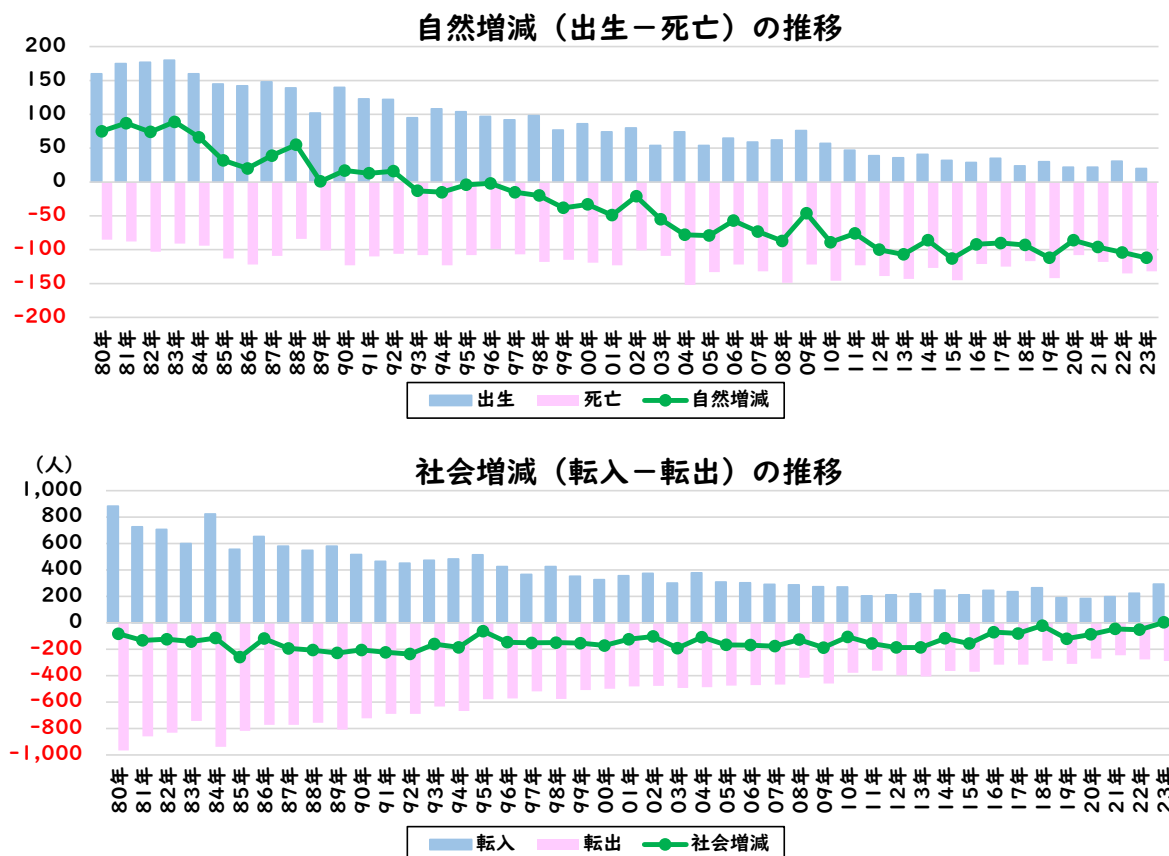
	1980年		2000年		2015年		2020年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4歳	451	493	241	222	94	101	73	63
5～9歳	591	592	267	257	147	120	87	95
10～14歳	662	628	323	319	151	144	140	106
15～19歳	559	574	326	334	159	171	144	129
20～24歳	443	446	235	257	117	119	102	107
25～29歳	545	530	304	297	132	120	125	133
30～34歳	543	571	282	322	179	171	131	125
35～39歳	458	508	275	330	188	171	170	153
40～44歳	527	570	323	338	216	224	185	164
45～49歳	591	531	460	449	239	270	221	222
50～54歳	503	485	442	493	237	280	243	264
55～59歳	375	470	362	461	279	293	231	266
60～64歳	300	356	410	472	363	401	260	285
65～69歳	259	266	405	426	384	445	359	377
70～74歳	188	151	324	395	272	370	336	416
75～79歳	93	111	208	312	268	374	224	337
80～84歳	35	64	120	186	209	289	210	318
85歳以上	18	27	58	124	117	253	171	315

※年齢不詳除く、出典：総務省「国勢調査」

(3) 自然動態（出生・死亡）と社会動態（転入・転出）の推移

出生数は平成7（1995）年までは100人以上だったものの、平成23（2011）年に50人未満となり、これまで減少傾向で推移しています。死亡数は平成9（1997）年以降は100人以上となっています。平成5（1993）年以降は自然増減がマイナスの状態が続いています。

社会動態では平成12（2000）年以降は、転入も転出も500人未満の状況です。昭和55（1980）年以降では、社会増減は40年以上転出超過の状態が続いていたものの、令和5（2023）年は転入超過となっています。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(人)

年	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
1980	160	85	75	884	966	-82
1981	175	88	87	727	860	-133
1982	177	103	74	708	832	-124
1983	180	91	89	601	743	-142
1984	160	94	66	824	939	-115
1985	145	113	32	558	818	-260
1986	142	122	20	654	773	-119
1987	148	109	39	580	773	-193
1988	139	84	55	550	756	-206
1989	102	101	1	580	808	-228
1990	140	123	17	517	722	-205
1991	123	110	13	466	689	-223
1992	122	106	16	452	688	-236
1993	95	108	-13	473	634	-161
1994	108	123	-15	483	668	-185
1995	104	108	-4	515	577	-62
1996	97	99	-2	426	573	-147
1997	92	107	-15	367	519	-152
1998	98	118	-20	426	576	-150
1999	77	115	-38	354	508	-154
2000	86	119	-33	327	498	-171
2001	74	123	-49	356	480	-124
2002	80	101	-21	374	477	-103
2003	54	109	-55	302	493	-191
2004	74	152	-78	379	487	-108
2005	54	133	-79	309	475	-166
2006	65	122	-57	304	472	-168
2007	59	132	-73	292	468	-176
2008	62	149	-87	288	415	-127
2009	76	122	-46	273	460	-187
2010	57	146	-89	272	378	-106
2011	47	123	-76	205	362	-157
2012	39	139	-100	212	398	-186
2013	36	143	-107	220	406	-186
2014	41	127	-86	248	365	-117
2015	32	145	-113	213	370	-157
2016	29	121	-92	246	316	-70
2017	35	125	-90	237	317	-80
2018	24	117	-93	265	286	-21
2019	30	142	-112	235	334	-99
2020	22	108	-86	184	271	-87
2021	22	118	-96	199	245	-46
2022	31	135	-104	225	277	-52
2023	20	132	-112	293	289	4

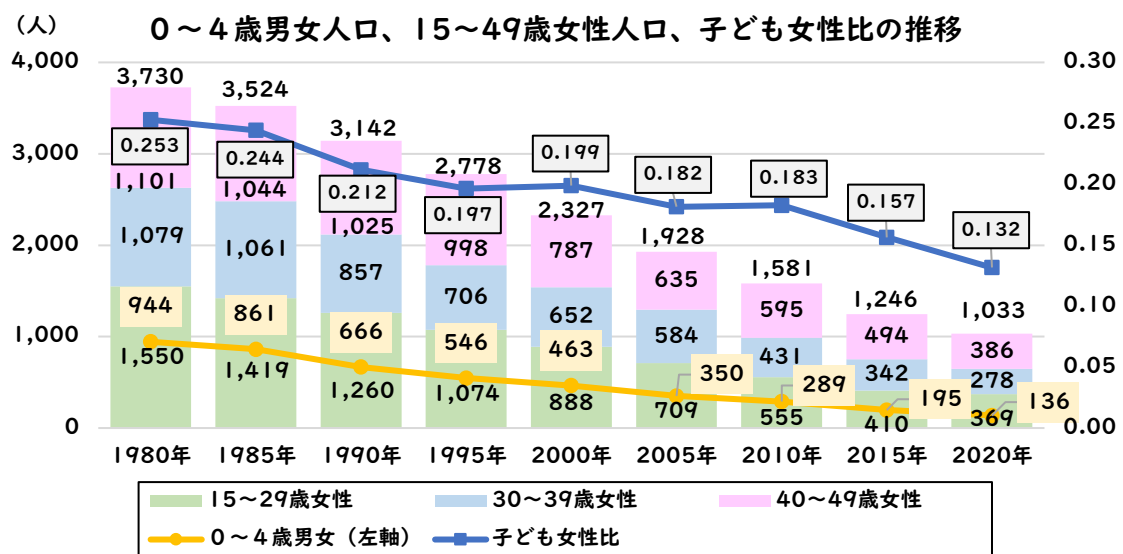
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

2. 人口動態について

(1) 0～4歳男女人口・15～49歳女性人口の推移

白糖町の0～4歳人口は昭和55（1980）年の944人から40年後の令和2（2020）年には136人に減少（減少率85.6％）しています。15～49歳の女性人口は昭和55（1980）年の3,730人から令和2（2020）年に1,033人に減少（減少率72.3％）しています。40年間の減少率は、15～29歳の女性は76.2％、30～39歳の女性は74.2％、40～49歳の女性は65.0％と年齢が低いほど減少率が大きい状況です。

子ども女性比（0～4歳人口と15～49歳女性人口の比）は、多少の増減はあるものの減少傾向で推移しています（40年間の減少率47.8％）。



	0～4歳男女	15～29歳女性	30～39歳女性	40～49歳女性	15～49歳女性	子ども女性比
1980年	944人	1,550人	1,079人	1,101人	3,730人	0.253
1985年	861人	1,419人	1,061人	1,044人	3,524人	0.244
1990年	666人	1,260人	857人	1,025人	3,142人	0.212
1995年	546人	1,074人	706人	998人	2,778人	0.197
2000年	463人	888人	652人	787人	2,327人	0.199
2005年	350人	709人	584人	635人	1,928人	0.182
2010年	289人	555人	431人	595人	1,581人	0.183
2015年	195人	410人	342人	494人	1,246人	0.157
2020年	136人	369人	278人	386人	1,033人	0.132

出典：総務省「国勢調査」

(2) 合計特殊出生率（TFR）の道内自治体との比較

白糠町の令和2（2020）年を中心とした平成30（2018）年から令和4（2022）年の合計特殊出生率は1.19となり、道内179市町村（35市、129町、15村）のうち、160番目となっています。全国は1.33、北海道は1.21です。

No.	市町村	TFR	No.	市町村	TFR	No.	市町村	TFR	No.	市町村	TFR
1	共和町	1.70	48	鹿部町	1.39	98	寿都町	1.32	142	神恵内村	1.23
2	別海町	1.64		厚真町	1.39		泊村	1.32		奈井江町	1.23
3	猿払村	1.62		新冠町	1.39		上砂川町	1.32		月形町	1.23
	佐呂間町	1.62		豊頃町	1.39		北竜町	1.32		当麻町	1.23
5	枝幸町	1.61	52	室蘭市	1.38	102	北見市	1.31		下川町	1.23
6	標津町	1.57		登別市	1.38		深川市	1.31		洞爺湖町	1.23
7	浜中町	1.54		岩内町	1.38		厚沢部町	1.31	148	釧路市	1.22
8	更別村	1.53		秩父別町	1.38		奥尻町	1.31		松前町	1.22
9	八雲町	1.52	59	訓子府町	1.38	107	厚岸町	1.31		赤井川村	1.22
	真狩村	1.52		西興部村	1.38		芦別市	1.30		南幌町	1.22
	斜里町	1.52		標茶町	1.38		乙部町	1.30		音威子府村	1.22
	大樹町	1.52		千歳市	1.37		京極町	1.30		池田町	1.22
13	小清水町	1.51	63	新十津川町	1.37		仁木町	1.30	154	栗山町	1.21
	むかわ町	1.51		雄武町	1.37	115	幌加内町	1.30		妹背牛町	1.21
15	遠軽町	1.50		中札内村	1.37		増毛町	1.30		美深町	1.21
	大空町	1.50	71	根室市	1.36		浜頓別町	1.30	157	夕張市	1.20
17	倶知安町	1.49		蘭越町	1.36		羅臼町	1.30		雨竜町	1.20
	中富良野町	1.49		天塩町	1.36	124	旭川市	1.29	160	新得町	1.20
	湧別町	1.49		豊富町	1.36		帯広市	1.29		白糠町	1.19
	上士幌町	1.49	77	浦河町	1.36		砂川市	1.29		留寿都村	1.19
	中標津町	1.49		えりも町	1.36		北斗市	1.29		由仁町	1.19
22	小平町	1.47		釧路町	1.36		余市町	1.29		比布町	1.19
23	富良野市	1.46		弟子屈町	1.36	130	長沼町	1.29		上川町	1.19
	新ひだか町	1.46	89	士別市	1.35		初山別村	1.29	166	美瑛町	1.19
26	幕別町	1.46		滝川市	1.35		利尻町	1.29		函館市	1.18
	広尾町	1.45		七飯町	1.35		滝上町	1.29		赤平市	1.18
27	名寄市	1.44		中頓別町	1.35	134	紋別市	1.28	168	岩見沢市	1.16
	上富良野町	1.44	89	置戸町	1.35		福島町	1.28		歌志内市	1.16
	羽幌町	1.44		陸別町	1.35		今金町	1.28	170	美瑛市	1.15
	津別町	1.44		網走市	1.34		せたな町	1.28		江別市	1.15
32	清里町	1.44		伊達市	1.34	139	浦臼町	1.28		白老町	1.15
	留萌市	1.43	89	石狩市	1.34		愛別町	1.28	173	北広島市	1.14
	稚内市	1.43		森町	1.34		恵庭市	1.27		黒松内町	1.13
	長万部町	1.43		ニセコ町	1.34	131	喜茂別町	1.26	175	小樽市	1.12
36	幌延町	1.43	89	鷹栖町	1.34		中川町	1.26		江差町	1.11
	安平町	1.42		礼文町	1.34		豊浦町	1.26	177	札幌市	1.09
	平取町	1.42		美幌町	1.34	134	知内町	1.25		占冠村	1.08
	士幌町	1.42		音更町	1.34		木古内町	1.25		当別町	0.97
39	苫小牧市	1.41	89	清水町	1.34		上ノ国町	1.25	179		
	東神楽町	1.41		芽室町	1.34		南富良野町	1.25			
	興部町	1.41		浦幌町	1.34		壮瞥町	1.25			
	本別町	1.41		新篠津村	1.33	139	古平町	1.24			
43	三笠市	1.40	89	島牧村	1.33		和寒町	1.24			
	剣淵町	1.40		積丹町	1.33		遠別町	1.24			
	日高町	1.40		沼田町	1.33						
	様似町	1.40		東川町	1.33						
43	鹿追町	1.40		苫前町	1.33						
				利尻富士町	1.33						
				足寄町	1.33						
				鶴居村	1.33						

出典：厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

(3) 年齢・性別国内の社会移動数の推移

白糠町の国内からの転入数、国内への転出数を10歳区分・性別で見ると、20代が最も転入・転出が多い状況で、大学や専門学校卒業後の就職を機に移動すると考えられます。60歳以上は転出が多く、子女の近くに転出することが考えられます。直近の令和5（2023）年では10代の男性、10歳未満、40代の女性で転入超過となっており、50代の男女が10人以上の転出超過で急増しています。

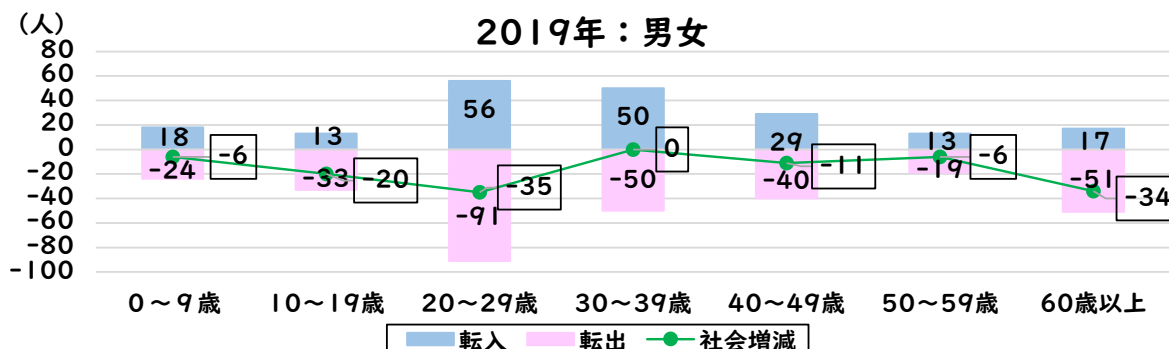
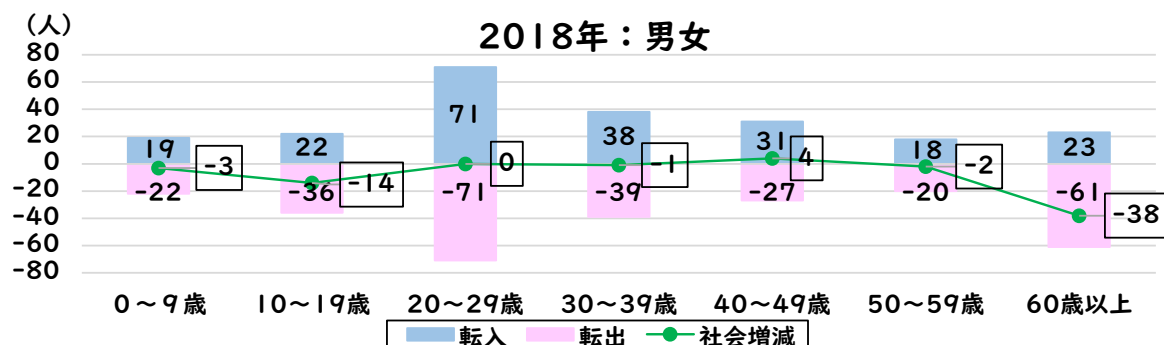
<2018～2023年の6年分の社会移動数>

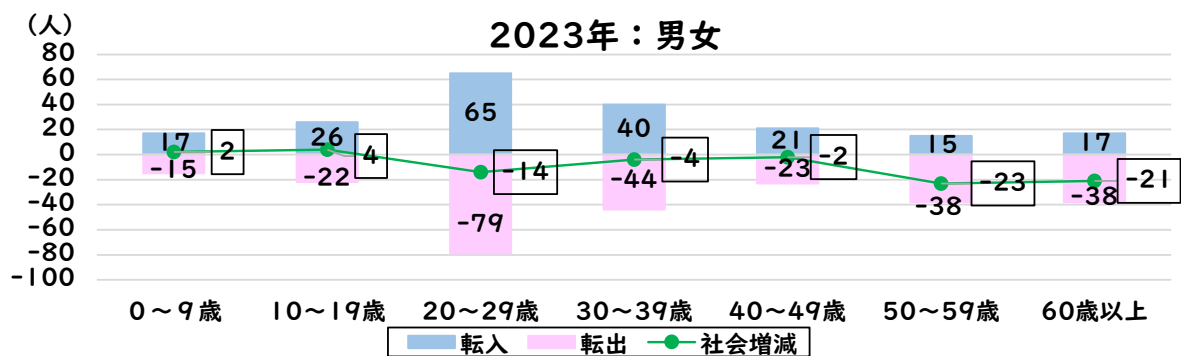
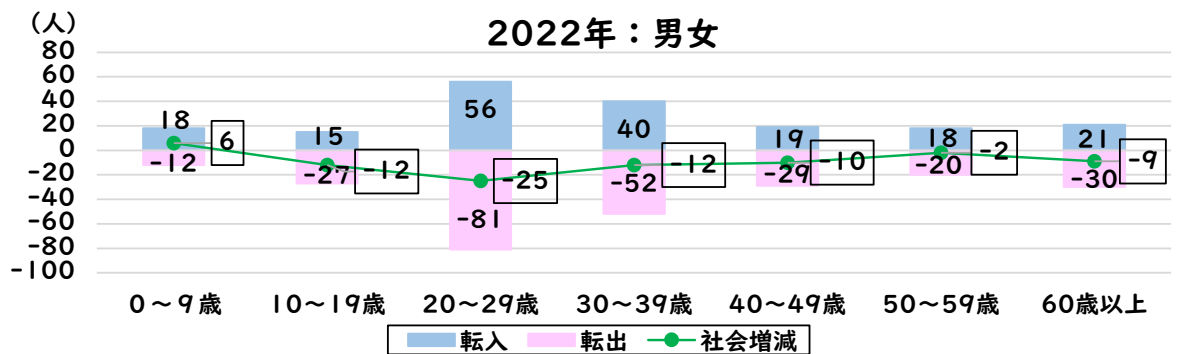
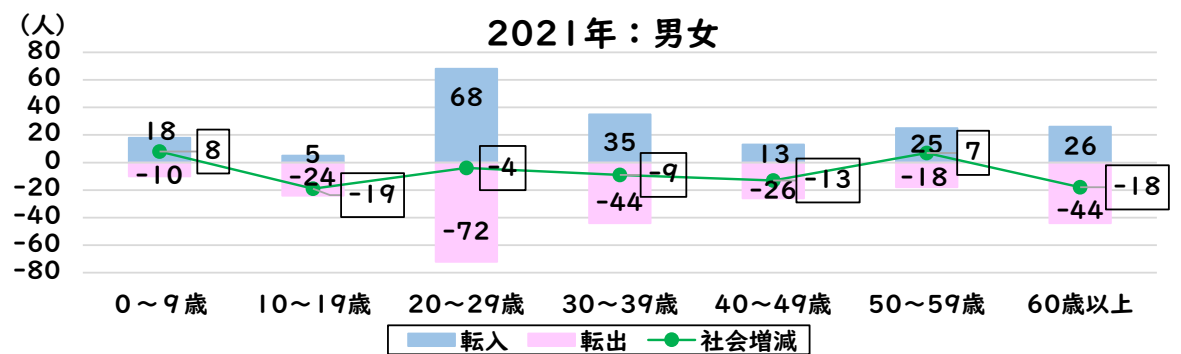
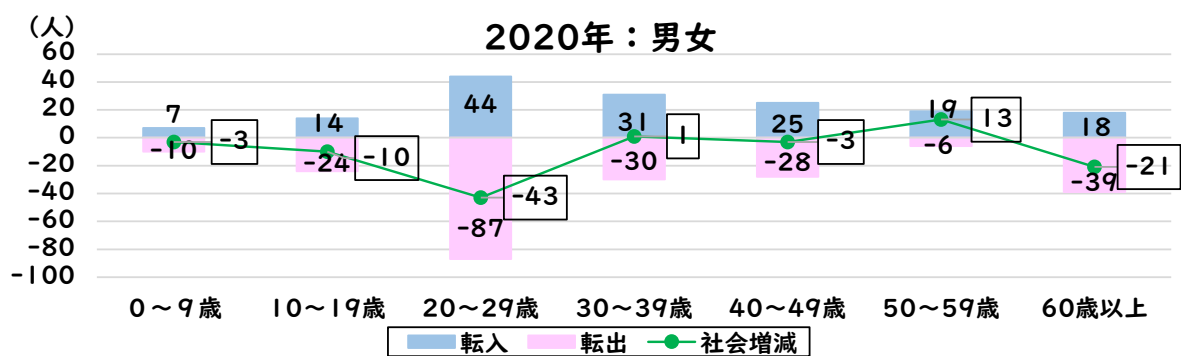
2018～2023年の6年分

(人)

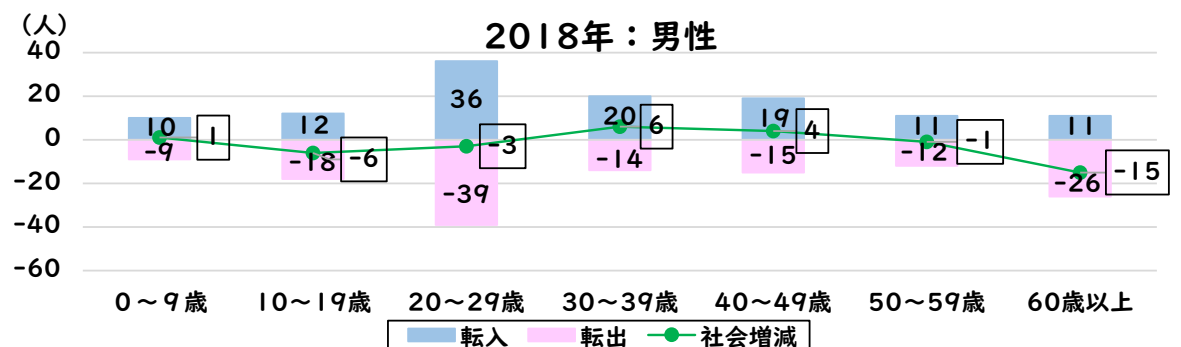
男女	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
転入	1,169	97	95	360	234	138	108	122
転出	1,571	93	166	481	259	173	121	263
社会増減	-402	4	-71	-121	-25	-35	-13	-141
男性	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
転入	631	48	64	185	122	85	70	56
転出	770	35	91	236	126	98	74	95
社会増減	-139	13	-27	-51	-4	-13	-4	-39
女性	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
転入	538	49	31	175	112	53	38	66
転出	801	58	75	245	133	75	47	168
社会増減	-263	-9	-44	-70	-21	-22	-9	-102

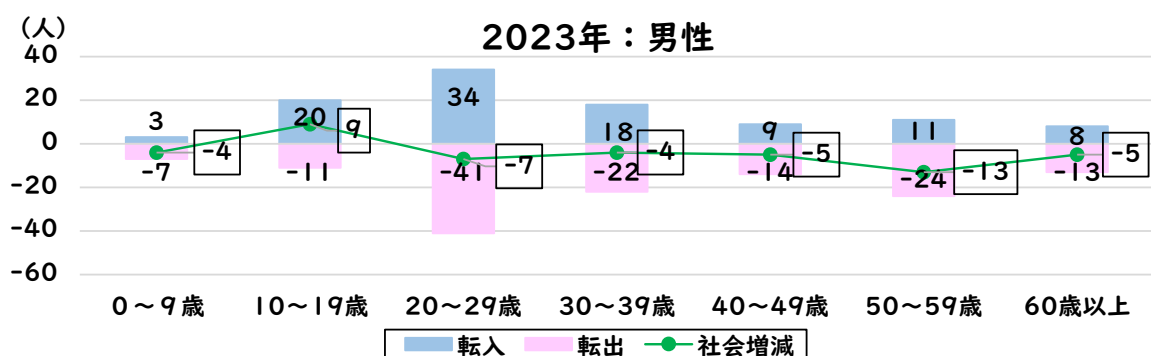
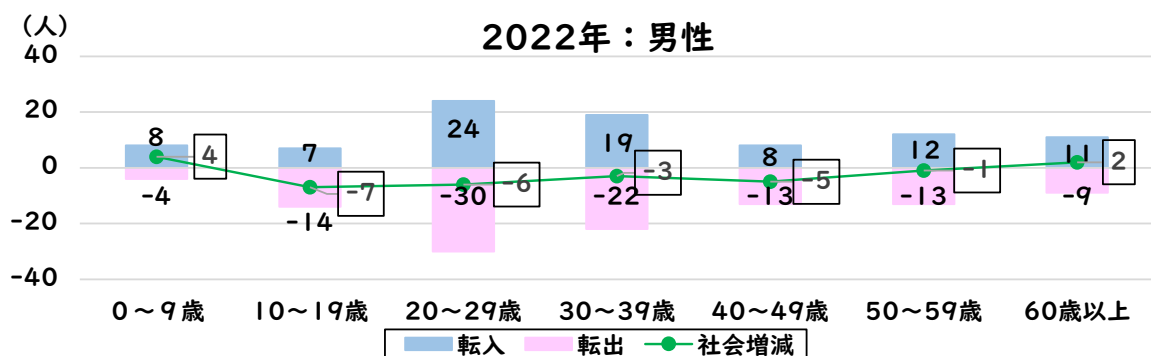
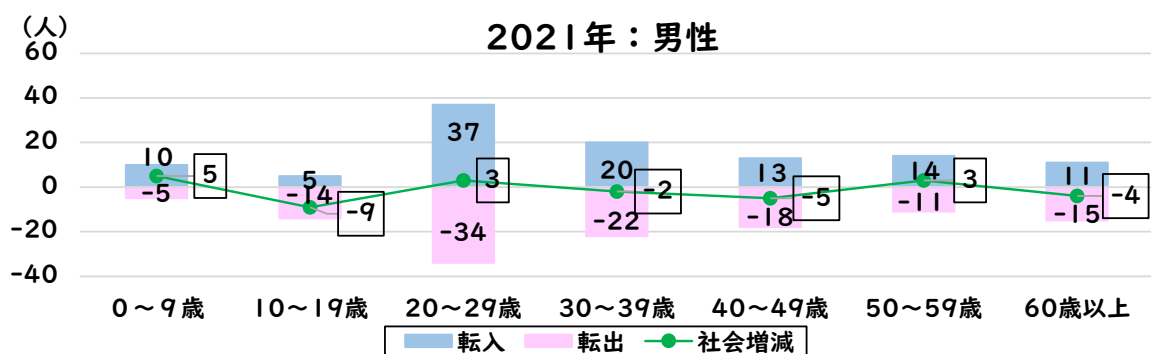
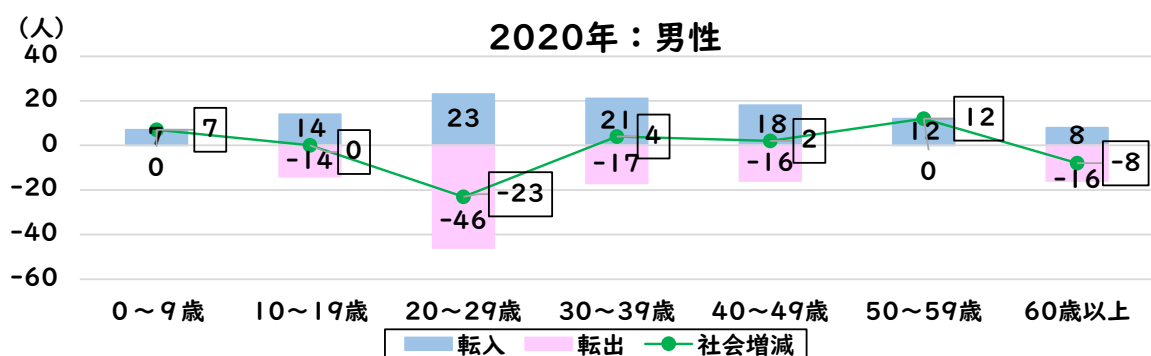
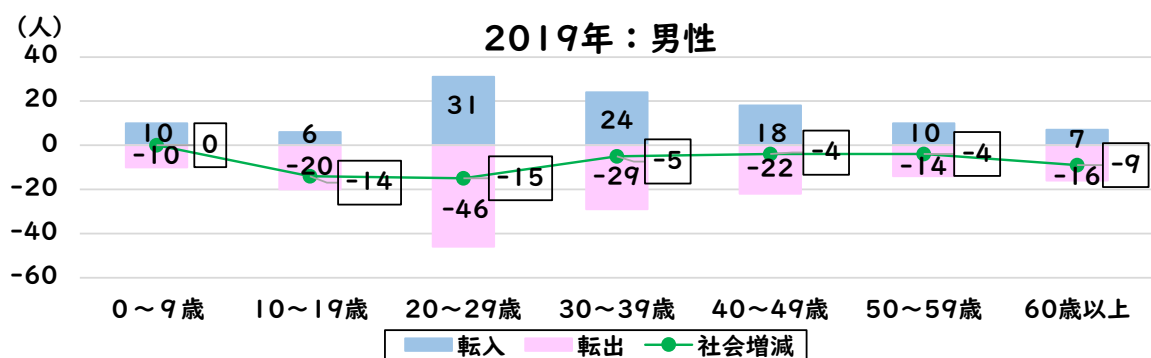
<男女：2018～2023年の社会移動数>



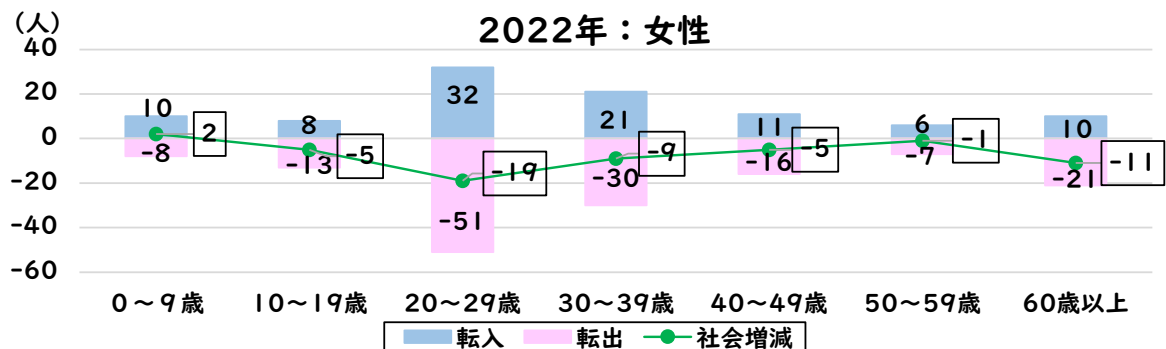
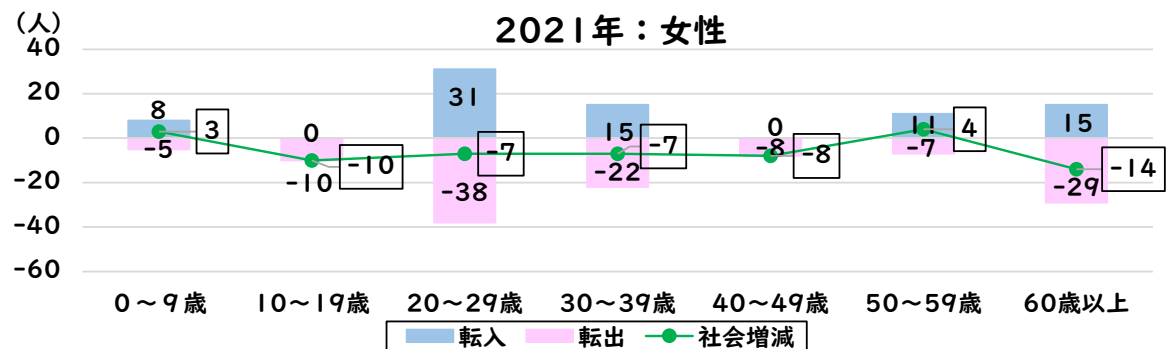
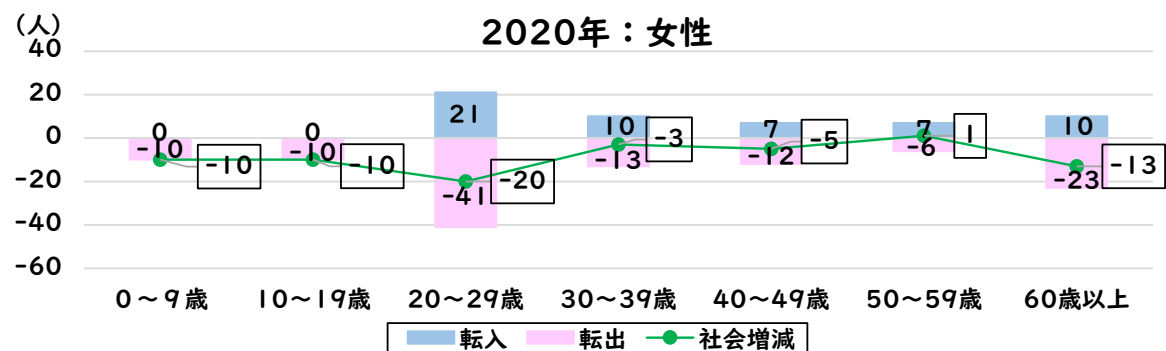
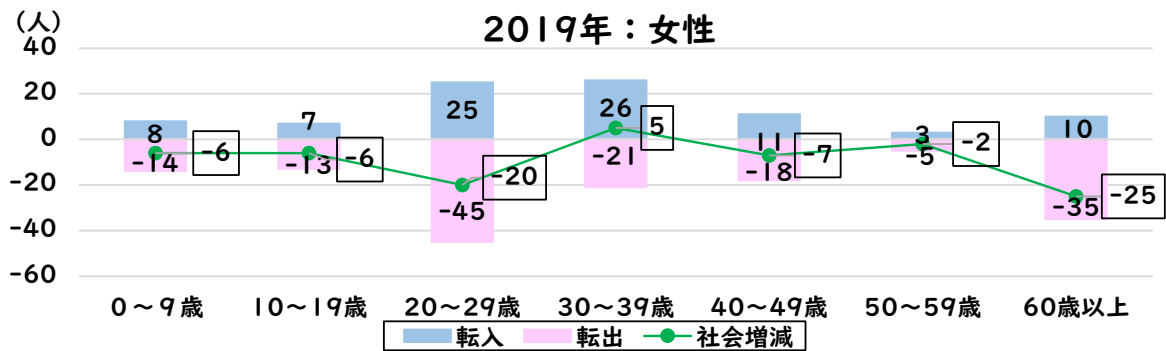
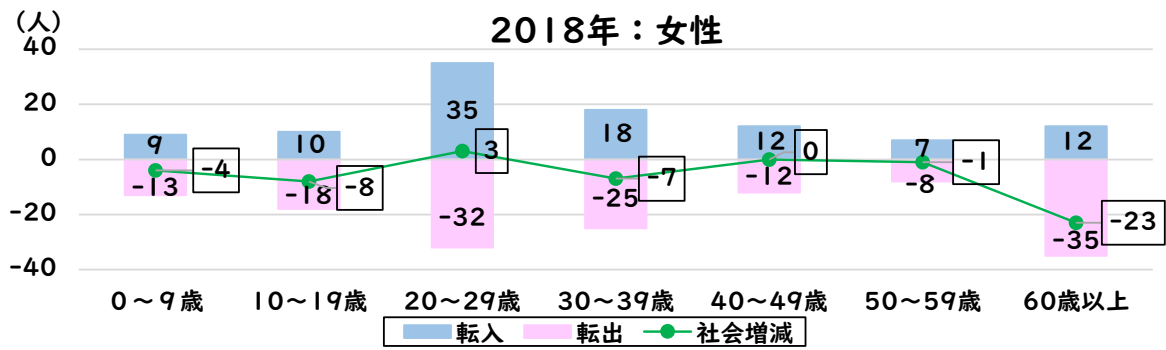


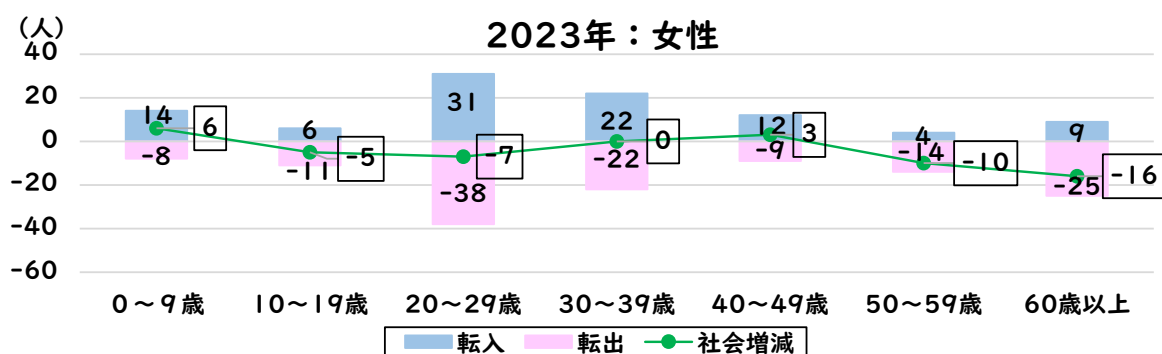
<男性：2018～2023年の社会移動数>





<女性：2018～2023 年の社会移動数>





※届出ベースである住民基本台帳の人口動態と数値が合わない場合があります
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

<2018～2023年の社会移動数>

(人)

男女		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	222	19	22	71	38	31	18	23	0
	転出	276	22	36	71	39	27	20	61	0
	社会増減	-54	-3	-14	0	-1	4	-2	-38	0
2019年	転入	196	18	13	56	50	29	13	17	0
	転出	308	24	33	91	50	40	19	51	0
	社会増減	-112	-6	-20	-35	0	-11	-6	-34	0
2020年	転入	165	7	14	44	31	25	19	18	7
	転出	239	10	24	87	30	28	6	39	15
	社会増減	-74	-3	-10	-43	1	-3	13	-21	-8
2021年	転入	195	18	5	68	35	13	25	26	5
	転出	238	10	24	72	44	26	18	44	0
	社会増減	-43	8	-19	-4	-9	-13	7	-18	5
2022年	転入	188	18	15	56	40	19	18	21	1
	転出	251	12	27	81	52	29	20	30	0
	社会増減	-63	6	-12	-25	-12	-10	-2	-9	1
2023年	転入	203	17	26	65	40	21	15	17	2
	転出	259	15	22	79	44	23	38	38	0
	社会増減	-56	2	4	-14	-4	-2	-23	-21	2

(人)

男性		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	119	10	12	36	20	19	11	11	0
	転出	133	9	18	39	14	15	12	26	0
	社会増減	-14	1	-6	-3	6	4	-1	-15	0
2019年	転入	106	10	6	31	24	18	10	7	0
	転出	157	10	20	46	29	22	14	16	0
	社会増減	-51	0	-14	-15	-5	-4	-4	-9	0
2020年	転入	103	7	14	23	21	18	12	8	0
	転出	124	0	14	46	17	16	0	16	15
	社会増減	-21	7	0	-23	4	2	12	-8	-15
2021年	転入	110	10	5	37	20	13	14	11	0
	転出	119	5	14	34	22	18	11	15	0
	社会増減	-9	5	-9	3	-2	-5	3	-4	0
2022年	転入	90	8	7	24	19	8	12	11	1
	転出	105	4	14	30	22	13	13	9	0
	社会増減	-15	4	-7	-6	-3	-5	-1	2	1
2023年	転入	103	3	20	34	18	9	11	8	0
	転出	132	7	11	41	22	14	24	13	0
	社会増減	-29	-4	9	-7	-4	-5	-13	-5	0

(人)

女性		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	103	9	10	35	18	12	7	12	0
	転出	143	13	18	32	25	12	8	35	0
	社会増減	-40	-4	-8	3	-7	0	-1	-23	0
2019年	転入	90	8	7	25	26	11	3	10	0
	転出	151	14	13	45	21	18	5	35	0
	社会増減	-61	-6	-6	-20	5	-7	-2	-25	0
2020年	転入	62	0	0	21	10	7	7	10	7
	転出	115	10	10	41	13	12	6	23	0
	社会増減	-53	-10	-10	-20	-3	-5	1	-13	7
2021年	転入	85	8	0	31	15	0	11	15	5
	転出	119	5	10	38	22	8	7	29	0
	社会増減	-34	3	-10	-7	-7	-8	4	-14	5
2022年	転入	98	10	8	32	21	11	6	10	0
	転出	146	8	13	51	30	16	7	21	0
	社会増減	-48	2	-5	-19	-9	-5	-1	-11	0
2023年	転入	100	14	6	31	22	12	4	9	2
	転出	127	8	11	38	22	9	14	25	0
	社会増減	-27	6	-5	-7	0	3	-10	-16	2

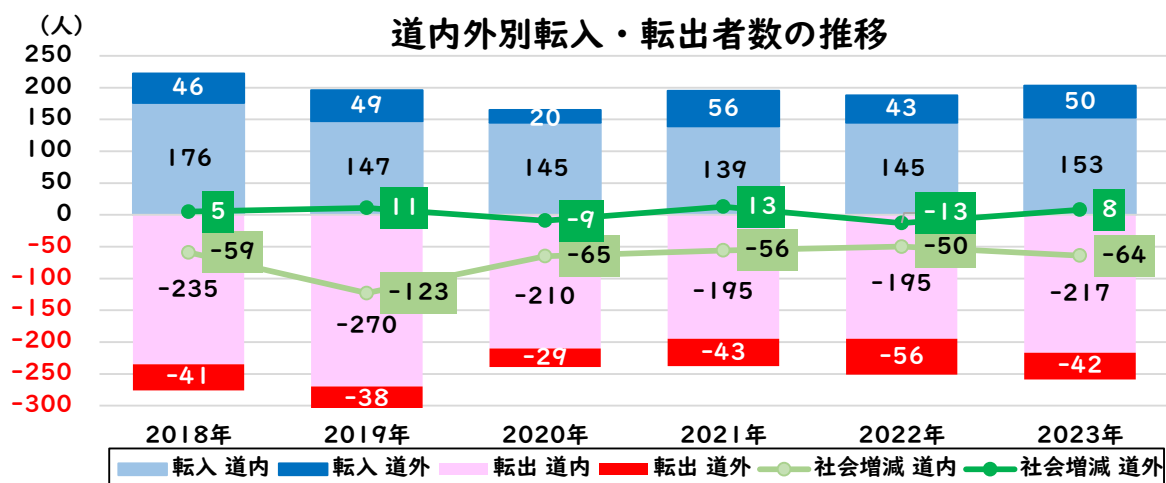
※届出ベースである住民基本台帳の人口動態と数値が合わない場合があります

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(4) 道内外別年齢・性別国内の社会移動数の推移

白糠町の移動数を道内外別に見ると、転入の77.4%（2018～2023年の6年平均）が道内市町村からで、転出の84.2%（同）が道内市町村へという状況です。また、道内の社会移動数は50人以上の転出超過で、道外の社会移動数は転入超過の年が多くなっています。

2018～2023年の6年分では道内の社会移動数で転入超過は10歳未満の男性のみとなっています。同様に道外の社会移動数では、10～29歳と60歳以上の女性の転出超過が見られるものの、それ以外は転入超過となっています。



<2018～2023年の6年分の道内外別社会移動数>

2018～2023年の6年分

		(人)							
男女・道内	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道内から転入	905	78	80	262	172	112	87	101	13
道内へ転出	1,322	87	143	374	198	158	110	238	14
社会増減	-417	-9	-63	-112	-26	-46	-23	-137	-1
男性・道内	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道内から転入	501	41	53	135	101	71	57	42	1
道内へ転出	667	34	82	190	106	88	68	85	14
社会増減	-166	7	-29	-55	-5	-17	-11	-43	-13
女性・道内	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道内から転入	404	37	27	127	71	41	30	59	12
道内へ転出	655	53	61	184	92	70	42	153	0
社会増減	-251	-16	-34	-57	-21	-29	-12	-94	12

2018～2023年の6年分

		(人)							
男女・道外	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道外から転入	264	19	15	98	62	26	21	21	2
道外へ転出	249	6	23	107	61	15	11	25	1
社会増減	15	13	-8	-9	1	11	10	-4	1
男性・道外	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道外から転入	130	7	11	50	21	14	13	14	0
道外へ転出	103	1	9	46	20	10	6	10	1
社会増減	27	6	2	4	1	4	7	4	-1
女性・道外	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
道外から転入	134	12	4	48	41	12	8	7	2
道外へ転出	146	5	14	61	41	5	5	15	0
社会増減	-12	7	-10	-13	0	7	3	-8	2

<2018～2023年の6年分の道内社会移動数>

(人)

男女・道内		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	176	18	22	50	27	28	14	17	0
	転出	235	18	32	57	30	25	20	53	0
	社会増減	-59	0	-10	-7	-3	3	-6	-36	0
2019年	転入	147	13	12	38	35	23	11	15	0
	転出	270	24	29	72	45	36	19	45	0
	社会増減	-123	-11	-17	-34	-10	-13	-8	-30	0
2020年	転入	145	7	14	37	27	21	18	15	6
	転出	210	10	22	71	29	25	6	33	14
	社会増減	-65	-3	-8	-34	-2	-4	12	-18	-8
2021年	転入	139	14	2	47	23	8	18	23	4
	転出	195	9	17	58	33	23	13	42	0
	社会増減	-56	5	-15	-11	-10	-15	5	-19	4
2022年	転入	145	14	14	35	33	15	15	18	1
	転出	195	11	22	55	32	27	18	30	0
	社会増減	-50	3	-8	-20	1	-12	-3	-12	1
2023年	転入	153	12	16	55	27	17	11	13	2
	転出	217	15	21	61	29	22	34	35	0
	社会増減	-64	-3	-5	-6	-2	-5	-23	-22	2

(人)

男性・道内		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	98	10	12	24	18	17	9	8	0
	転出	117	9	15	32	12	14	12	23	0
	社会増減	-19	1	-3	-8	6	3	-3	-15	0
2019年	転入	85	8	6	22	20	16	8	5	0
	転出	133	10	18	33	24	20	14	14	0
	社会増減	-48	-2	-12	-11	-4	-4	-6	-9	0
2020年	転入	90	7	14	19	19	15	11	5	0
	転出	111	0	14	38	17	14	0	14	14
	社会増減	-21	7	0	-19	2	1	11	-9	-14
2021年	転入	77	7	2	26	13	8	11	10	0
	転出	98	5	11	29	17	15	8	13	0
	社会増減	-21	2	-9	-3	-4	-7	3	-3	0
2022年	転入	71	6	7	15	17	8	9	8	1
	転出	93	3	13	25	19	12	12	9	0
	社会増減	-22	3	-6	-10	-2	-4	-3	-1	1
2023年	転入	80	3	12	29	14	7	9	6	0
	転出	115	7	11	33	17	13	22	12	0
	社会増減	-35	-4	1	-4	-3	-6	-13	-6	0

(人)

女性・道内		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	78	8	10	26	9	11	5	9	0
	転出	118	9	17	25	18	11	8	30	0
	社会増減	-40	-1	-7	1	-9	0	-3	-21	0
2019年	転入	62	5	6	16	15	7	3	10	0
	転出	137	14	11	39	21	16	5	31	0
	社会増減	-75	-9	-5	-23	-6	-9	-2	-21	0
2020年	転入	55	0	0	18	8	6	7	10	6
	転出	99	10	8	33	12	11	6	19	0
	社会増減	-44	-10	-8	-15	-4	-5	1	-9	6
2021年	転入	62	7	0	21	10	0	7	13	4
	転出	97	4	6	29	16	8	5	29	0
	社会増減	-35	3	-6	-8	-6	-8	2	-16	4
2022年	転入	74	8	7	20	16	7	6	10	0
	転出	102	8	9	30	13	15	6	21	0
	社会増減	-28	0	-2	-10	3	-8	0	-11	0
2023年	転入	73	9	4	26	13	10	2	7	2
	転出	102	8	10	28	12	9	12	23	0
	社会増減	-29	1	-6	-2	1	1	-10	-16	2

<2018～2023年の6年分の道外社会移動数>

(人)

男女・道外		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	46	1	0	21	11	3	4	6	0
	転出	41	4	4	14	9	2	0	8	0
	社会増減	5	-3	-4	7	2	1	4	-2	0
2019年	転入	49	5	1	18	15	6	2	2	0
	転出	38	0	4	19	5	4	0	6	0
	社会増減	11	5	-3	-1	10	2	2	-4	0
2020年	転入	20	0	0	7	4	4	1	3	1
	転出	29	0	2	16	1	3	0	6	1
	社会増減	-9	0	-2	-9	3	1	1	-3	0
2021年	転入	56	4	3	21	12	5	7	3	1
	転出	43	1	7	14	11	3	5	2	0
	社会増減	13	3	-4	7	1	2	2	1	1
2022年	転入	43	4	1	21	7	4	3	3	0
	転出	56	1	5	26	20	2	2	0	0
	社会増減	-13	3	-4	-5	-13	2	1	3	0
2023年	転入	50	5	10	10	13	4	4	4	0
	転出	42	0	1	18	15	1	4	3	0
	社会増減	8	5	9	-8	-2	3	0	1	0

(人)

男性・道外		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	21	0	0	12	2	2	2	3	0
	転出	16	0	3	7	2	1	0	3	0
	社会増減	5	0	-3	5	0	1	2	0	0
2019年	転入	21	2	0	9	4	2	2	2	0
	転出	24	0	2	13	5	2	0	2	0
	社会増減	-3	2	-2	-4	-1	0	2	0	0
2020年	転入	13	0	0	4	2	3	1	3	0
	転出	13	0	0	8	0	2	0	2	1
	社会増減	0	0	0	-4	2	1	1	1	-1
2021年	転入	33	3	3	11	7	5	3	1	0
	転出	21	0	3	5	5	3	3	2	0
	社会増減	12	3	0	6	2	2	0	-1	0
2022年	転入	19	2	0	9	2	0	3	3	0
	転出	12	1	1	5	3	1	1	0	0
	社会増減	7	1	-1	4	-1	-1	2	3	0
2023年	転入	23	0	8	5	4	2	2	2	0
	転出	17	0	0	8	5	1	2	1	0
	社会増減	6	0	8	-3	-1	1	0	1	0

(人)

女性・道外		総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳他
2018年	転入	25	1	0	9	9	1	2	3	0
	転出	25	4	1	7	7	1	0	5	0
	社会増減	0	-3	-1	2	2	0	2	-2	0
2019年	転入	28	3	1	9	11	4	0	0	0
	転出	14	0	2	6	0	2	0	4	0
	社会増減	14	3	-1	3	11	2	0	-4	0
2020年	転入	7	0	0	3	2	1	0	0	1
	転出	16	0	2	8	1	1	0	4	0
	社会増減	-9	0	-2	-5	1	0	0	-4	1
2021年	転入	23	1	0	10	5	0	4	2	1
	転出	22	1	4	9	6	0	2	0	0
	社会増減	1	0	-4	1	-1	0	2	2	1
2022年	転入	24	2	1	12	5	4	0	0	0
	転出	44	0	4	21	17	1	1	0	0
	社会増減	-20	2	-3	-9	-12	3	-1	0	0
2023年	転入	27	5	2	5	9	2	2	2	0
	転出	25	0	1	10	10	0	2	2	0
	社会増減	2	5	1	-5	-1	2	0	0	0

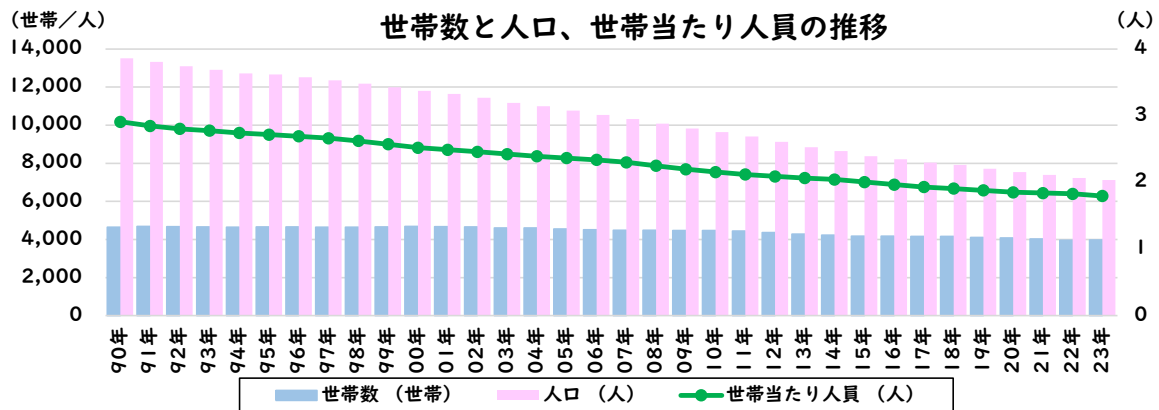
※届出ベースである住民基本台帳の人口動態と数値が合わない場合があります

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

3. 世帯数について

(1) 世帯数の推移

白糠町の世帯数は多少の増減はあるものの、人口とともに減少傾向で推移しています。世帯当たり人員は毎年減少傾向で推移しています。



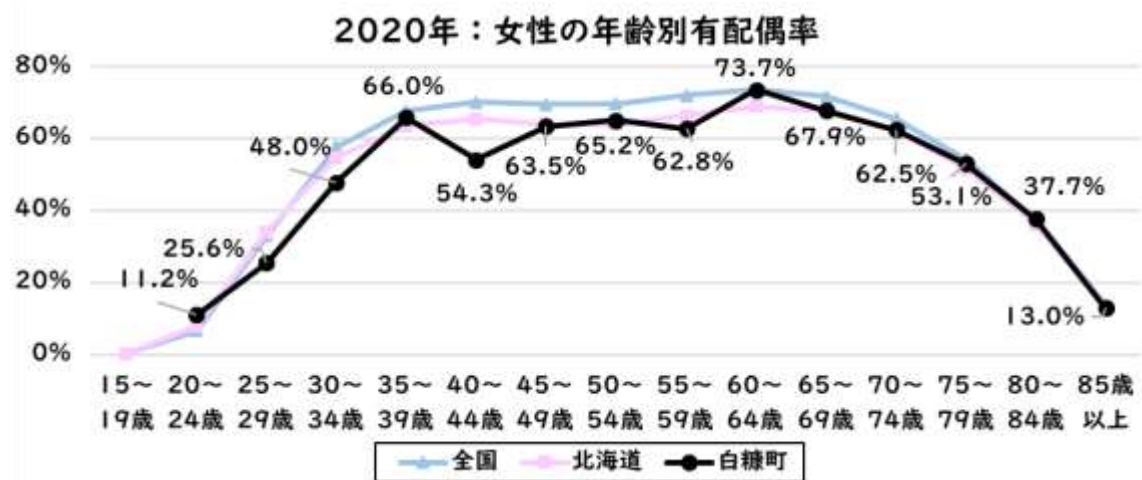
年	世帯数 (世帯)	人口 (人)	世帯当たり人員 (人)	年	世帯数 (世帯)	人口 (人)	世帯当たり人員 (人)
1990	4,645	13,505	2.91	2007	4,487	10,321	2.30
1991	4,680	13,317	2.85	2008	4,483	10,080	2.25
1992	4,675	13,100	2.80	2009	4,475	9,831	2.20
1993	4,653	12,911	2.77	2010	4,472	9,634	2.15
1994	4,640	12,715	2.74	2011	4,439	9,403	2.12
1995	4,662	12,662	2.72	2012	4,369	9,124	2.09
1996	4,652	12,517	2.69	2013	4,287	8,849	2.06
1997	4,643	12,360	2.66	2014	4,227	8,638	2.04
1998	4,646	12,182	2.62	2015	4,175	8,371	2.01
1999	4,665	11,996	2.57	2016	4,179	8,215	1.97
2000	4,684	11,799	2.52	2017	4,167	8,037	1.93
2001	4,675	11,640	2.49	2018	4,154	7,918	1.91
2002	4,653	11,436	2.46	2019	4,101	7,710	1.88
2003	4,610	11,176	2.42	2020	4,074	7,539	1.85
2004	4,601	11,001	2.39	2021	4,020	7,391	1.84
2005	4,552	10,761	2.36	2022	3,957	7,234	1.83
2006	4,507	10,531	2.34	2023	3,970	7,127	1.80

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

4. 婚姻について

(1) 年齢別有配偶率の比較

白糠町の令和2（2020）年の女性の年齢別有配偶率は、40～44歳女性が非常に低く、北海道よりも11.2ポイント、全国よりも15.9ポイント低い状況です。



2020年	全国	北海道	白糠町
15～19歳	0.3%	0.4%	—
20～24歳	6.7%	8.0%	11.2%
25～29歳	33.1%	34.1%	25.6%
30～34歳	57.8%	54.8%	48.0%
35～39歳	67.7%	63.6%	66.0%
40～44歳	70.2%	65.5%	54.3%
45～49歳	69.6%	64.0%	63.5%
50～54歳	69.8%	64.1%	65.2%
55～59歳	72.1%	66.5%	62.8%
60～64歳	73.8%	69.0%	73.7%
65～69歳	71.7%	67.8%	67.9%
70～74歳	65.6%	62.5%	62.5%
75～79歳	54.4%	51.7%	53.1%
80～84歳	37.8%	36.4%	37.7%
85歳以上	13.8%	13.2%	13.0%
全体	53.7%	51.1%	51.0%

出典：総務省「国勢調査」

(2) 有配偶出生率の比較

白糠町の令和2（2020）年の有配偶出生率（千人当たり）は50.3となり、北海道の66.4や全国の72.0と大きな開きがあります。

また、女性人口に占める15～49歳女性の割合は白糠町26.7%に対し、全国37.5%、北海道34.9%となっており、15～49歳女性の人口が少ない状況です。

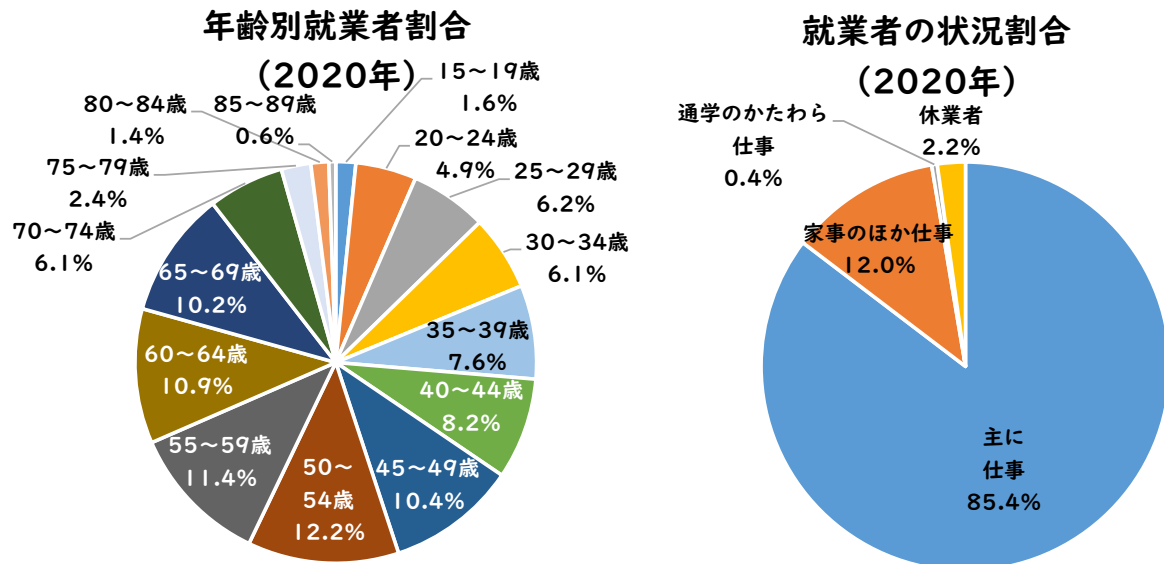
2020年	白糠町	全国	北海道
15-49歳の有配偶女性（人）	437	11,682,398	444,369
出生数（人）	22	840,835	29,523
有配偶出生率（千人当たり）	50.3	72.0	66.4
15～49歳の女性（人）	1,033	24,299,934	962,528
15歳以上の女性（人）	3,611	56,160,102	2,462,062
女性人口（人）	3,875	64,866,554	2,759,526
女性人口に占める15～49歳女性の割合	26.7%	37.5%	34.9%

出典：総務省「国勢調査」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

5. 地域経済の特性

(1) 労働力人口の状態

白糠町の労働力人口の状態は、以下の令和2（2020）年の国勢調査のとおりです。45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳、65～69歳は10%以上の割合を占めています。



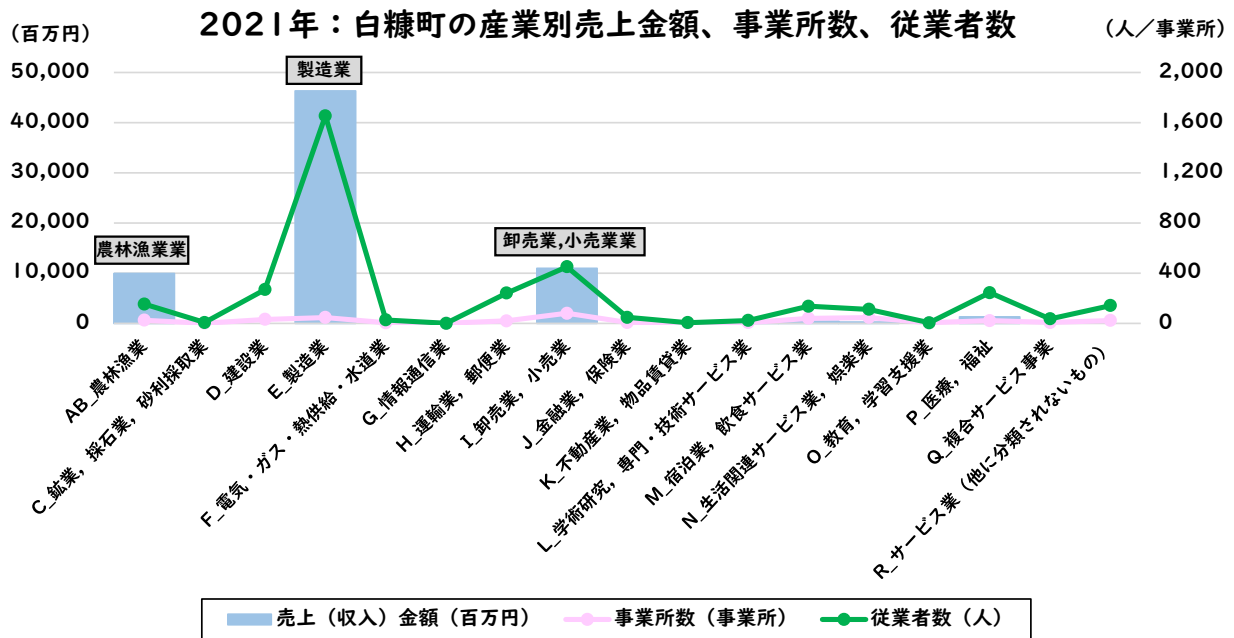
(人)

年 齢	総数 (A)	労働力人口							非 労働力 人口	労働力 率 B/A	完全 失業率 C/B
		(B)	就業者					完全 失業者 (C)			
			主に 仕事	家事のほ か仕事	通学のかた わら仕事	休業者					
総数	6,723	3,778	3,612	3,083	433	16	80	166	2,945	56.2%	4.4%
15～19歳	273	69	58	47	-	11	-	11	204	25.3%	15.9%
20～24歳	209	191	177	166	4	5	2	14	18	91.4%	7.3%
25～29歳	258	237	224	215	7	-	2	13	21	91.9%	5.5%
30～34歳	256	229	219	197	16	-	6	10	27	89.5%	4.4%
35～39歳	323	290	273	241	29	-	3	17	33	89.8%	5.9%
40～44歳	349	315	295	263	31	-	1	20	34	90.3%	6.3%
45～49歳	443	395	377	323	50	-	4	18	48	89.2%	4.6%
50～54歳	507	455	440	388	48	-	4	15	52	89.7%	3.3%
55～59歳	497	423	410	351	50	-	9	13	74	85.1%	3.1%
60～64歳	545	401	392	326	59	-	7	9	144	73.6%	2.2%
65～69歳	736	381	368	288	56	-	24	13	355	51.8%	3.4%
70～74歳	752	228	221	169	44	-	8	7	524	30.3%	3.1%
75～79歳	561	88	86	63	20	-	3	2	473	15.7%	2.3%
80～84歳	528	56	52	32	16	-	4	4	472	10.6%	7.1%
85～89歳	334	20	20	14	3	-	3	-	314	6.0%	-
90～94歳	112	-	-	-	-	-	-	-	112	-	-
95歳以上	40	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-

出典：総務省「国勢調査」

(2) 白糠町の産業の現状

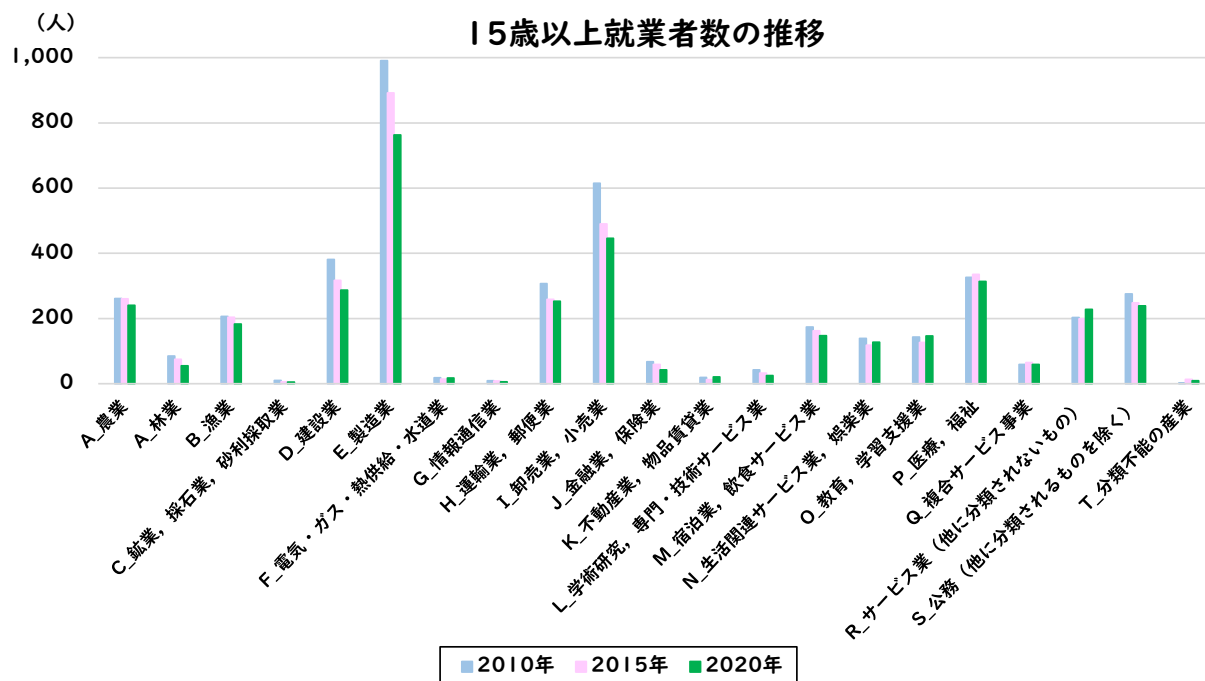
白糠町の令和3（2021）年の産業構造は「製造業」が売上金額、従業者数ともに突出しており、従業者数は全体の46.7%を占め、基幹産業となっています。次いで「卸売業、小売業」「農林漁業」となっています。



2021年	売上（収入）金額 （百万円）	事業所数 （事業所）	従業者数 （人）
AB_農林漁業	9,935	24	153
C_鉱業、採石業、砂利採取業	-	1	6
D_建設業	-	31	269
E_製造業	46,288	46	1,654
F_電気・ガス・熱供給・水道業	-	4	27
G_情報通信業	-	-	-
H_運輸業、郵便業	-	19	241
I_卸売業、小売業	10,921	79	450
J_金融業、保険業	-	6	47
K_不動産業、物品賃貸業	86	4	5
L_学術研究、専門・技術サービス業	56	5	22
M_宿泊業、飲食サービス業	408	39	136
N_生活関連サービス業、娯楽業	269	46	111
O_教育、学習支援業	-	4	4
P_医療、福祉	1,293	21	244
Q_複合サービス事業	-	6	35
R_サービス業（他に分類されないもの）	-	22	141
総数	69,256	357	3,545

※売上金額は秘匿性の観点から一部非公開
出典：経済産業省「経済センサス-活動調査」

白糖町の15歳以上の就業者数の推移では、多くの産業で減少しているものの、平成22（2010）年から令和2（2020）年の10年間で増加している産業（就業者100人以上）は「教育、学習支援業」で、143人から146人に増加しています。就業者が100人以上で、総数の伸長率（83.4%）よりも5ポイント以上高い産業は、「農業」「漁業」「教育、学習支援業」などとなっています。



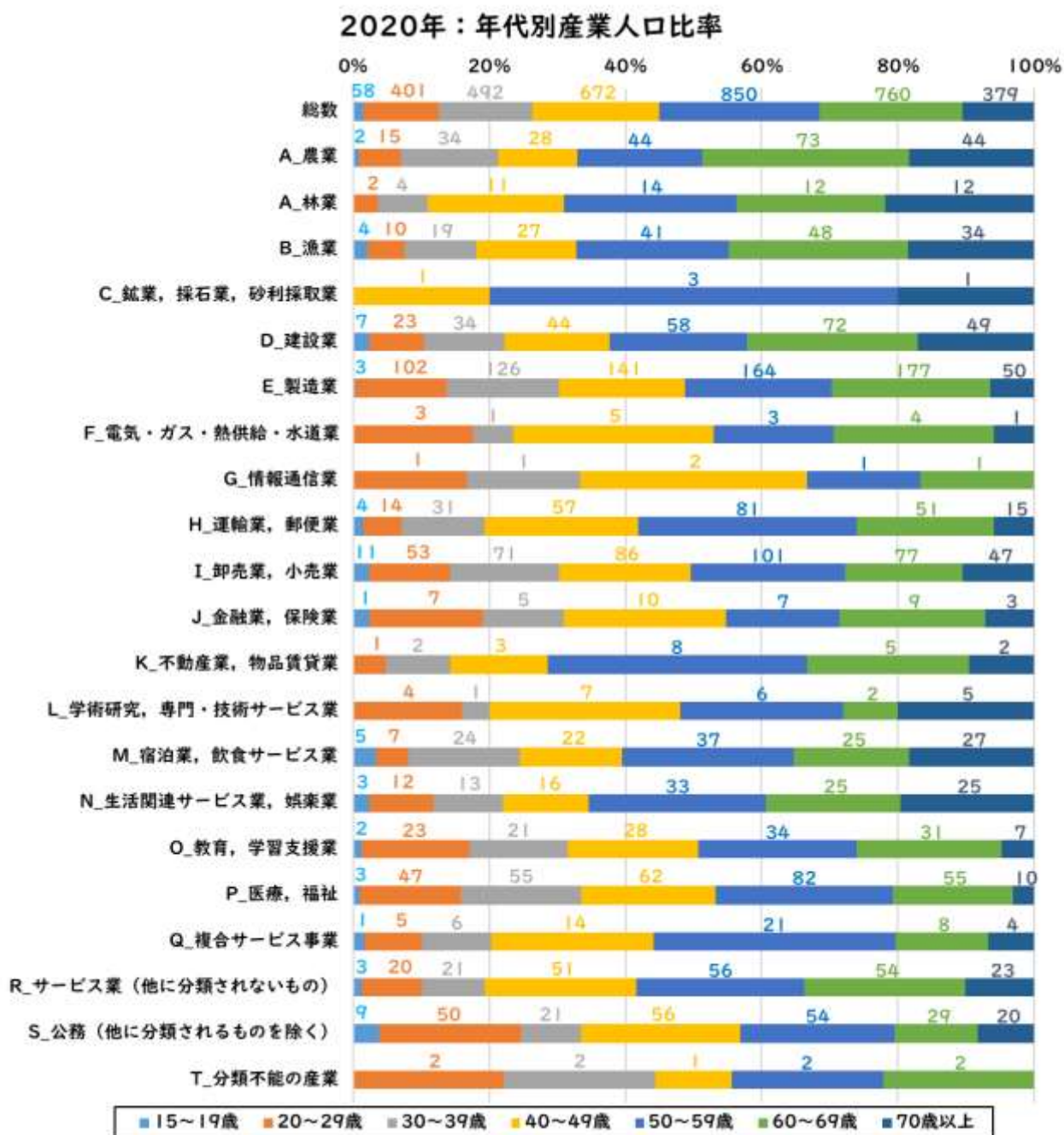
(人)

15歳以上就業者数	2010年	2015年	2020年	2020年割合	10年間の伸長率
A_農業	261	260	240	6.6%	92.0%
A_林業	85	75	55	1.5%	64.7%
B_漁業	206	204	183	5.1%	88.8%
C_鉱業、採石業、砂利採取業	10	6	5	0.1%	50.0%
D_建設業	381	317	287	7.9%	75.3%
E_製造業	991	892	763	21.1%	77.0%
F_電気・ガス・熱供給・水道業	18	14	17	0.5%	94.4%
G_情報通信業	9	8	6	0.2%	66.7%
H_運輸業、郵便業	307	259	253	7.0%	82.4%
I_卸売業、小売業	615	490	446	12.3%	72.5%
J_金融業、保険業	67	59	42	1.2%	62.7%
K_不動産業、物品賃貸業	19	12	21	0.6%	110.5%
L_学術研究、専門・技術サービス業	42	32	25	0.7%	59.5%
M_宿泊業、飲食サービス業	174	162	147	4.1%	84.5%
N_生活関連サービス業、娯楽業	139	118	127	3.5%	91.4%
O_教育、学習支援業	143	126	146	4.0%	102.1%
P_医療、福祉	326	335	314	8.7%	96.3%
Q_複合サービス事業	59	65	59	1.6%	100.0%
R_サービス業（他に分類されないもの）	203	199	228	6.3%	112.3%
S_公務（他に分類されるものを除く）	275	248	239	6.6%	86.9%
T_分類不能の産業	2	13	9	0.2%	450.0%
総数	4,332	3,894	3,612	100.0%	83.4%

出典：総務省「国勢調査」

白糠町の15歳以上の就業者数で最も多いのは50代で850人となっており、次いで60代の760人、40代の672人となっています。

各年代で比率が高い産業を挙げると、10・20代は「公務」、30代は「医療、福祉」、40代は「情報通信業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「学術研究、専門・技術サービス業」、50代は「鉱業、採石業、砂利採取業」「不動産業、物品賃貸業」「複合サービス事業」、60代は「農業」、70歳以上は「林業」となっています。



※グラフ上の数値は就業者数（人）

出典：総務省「国勢調査」

6. 人口推移から見た課題

これまでの人口推移に関する分析から、将来の白糠町人口を展望する上での課題は、以下のとおりです。

◆人口減少スピードが早い

2010 年以降に総人口の 5 年毎の減少率が 10%程度となっており、人口減少のスピードが加速しています。総人口は 2020 年に 7,289 人で、2025 年は 6,000 人台になると見込まれます。

⇒人口減少の要因となるのは死亡と転出であり、転出の抑制が求められます。また、人口増加の要因となる出生と転入を増やす施策も重要です。

◆総人口に占める 65 歳以上人口の割合の増加スピードが早い

2020 年の総人口に占める 65 歳以上の人口割合は 42.0%となっており、1995 年以降は 5 年毎に 5 ポイント程度上昇しています。生産年齢人口の減少もあり、介護保険料の負担などで財政にも影響が及ぶと考えられます。

⇒介護予防施策が求められます。

◆合計特殊出生率が 1.19 と低い

2020 年の白糠町の合計特殊出生率は 1.19 で、全国 (1.33) や北海道 (1.21) よりも低く、北海道 179 市町村のうち 160 位と低い数値です。

⇒出産しやすい環境づくりが求められます。

◆20～30 代若年層の転出が多い

就職を契機とした転出が多いため、20～30 代が少なく、出産可能な年齢の女性も少なくなっています。そのため、自然増となる出生数の伸びが期待できない状況になりつつあります。

⇒町内での雇用創出が求められます。

◆有配偶出生率が低い

2020 年の女性の有配偶率は 40 代、50 代で低く、2020 年の有配偶出生率は全国 72.0、北海道 66.4 に対し、白糠町は 50.3 と非常に低くなっています。

⇒子どもが欲しい夫婦の希望を叶える環境づくりが求められます。

◆基幹産業である製造業の就業者数が減少傾向

白糠町の基幹産業となる「製造業」の就業者数が 2010 年から 2020 年で 23.0%減の 763 人となっています。「製造業」に次ぐ産業である「卸売業、小売業」も同様の傾向で、同 27.5%減の 446 人となっています。

⇒町内の基幹産業である「製造業」「卸売業、小売業」への支援の検討が必要です。

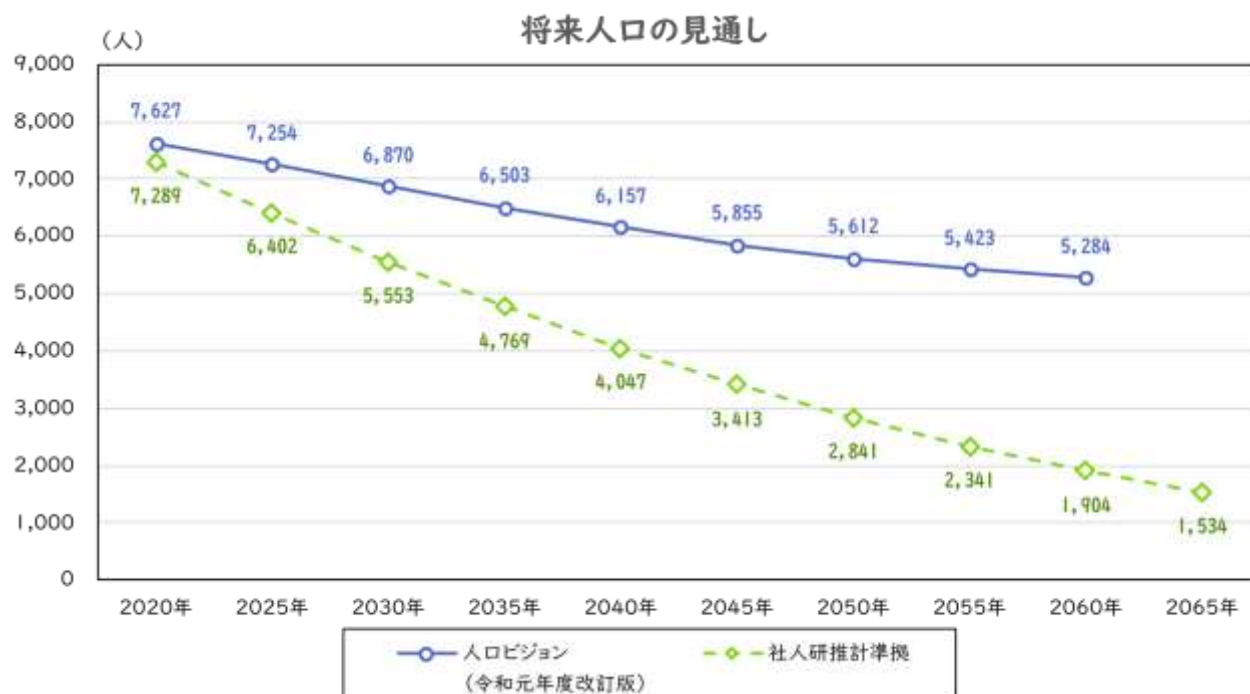
第3章 白糠町の将来人口シミュレーション

1. 将来人口の見通し

(1) 国立社会保障・人口問題研究所による推計

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によれば、白糠町の将来人口は今後も減少傾向で推移し、2050年には2,841人にまで減少することが予測されています。

これは、「白糠町人口ビジョン（令和元年度改訂版）」において目標人口として設定した水準を大きく下回っている状況です。

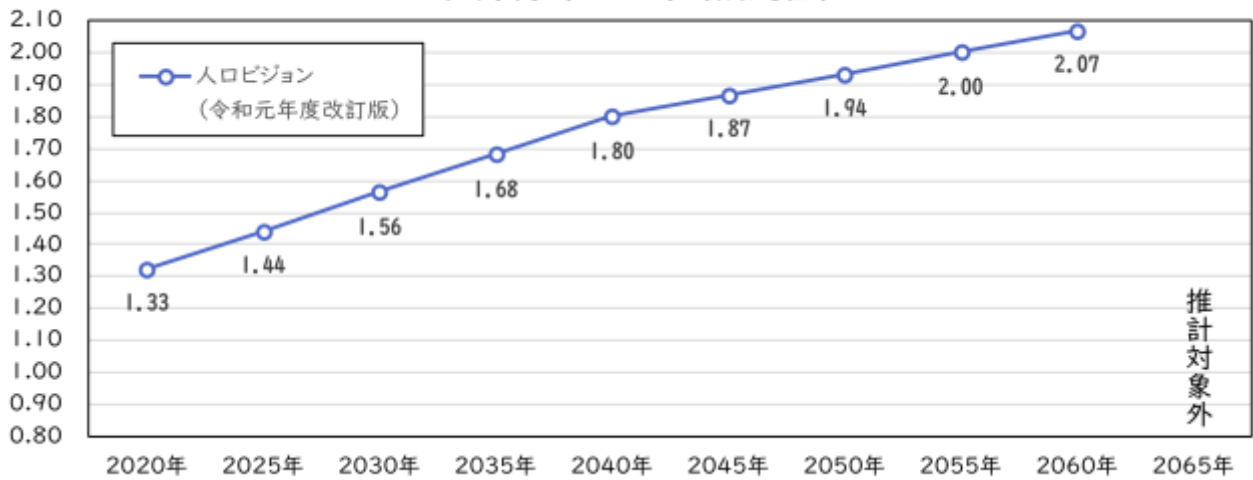


	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
人口ビジョン (令和元年度改訂版)	7,627	7,254	6,870	6,503	6,157	5,855	5,612	5,423	5,284	
社人研推計準拠	7,289	6,402	5,553	4,769	4,047	3,413	2,841	2,341	1,904	1,534

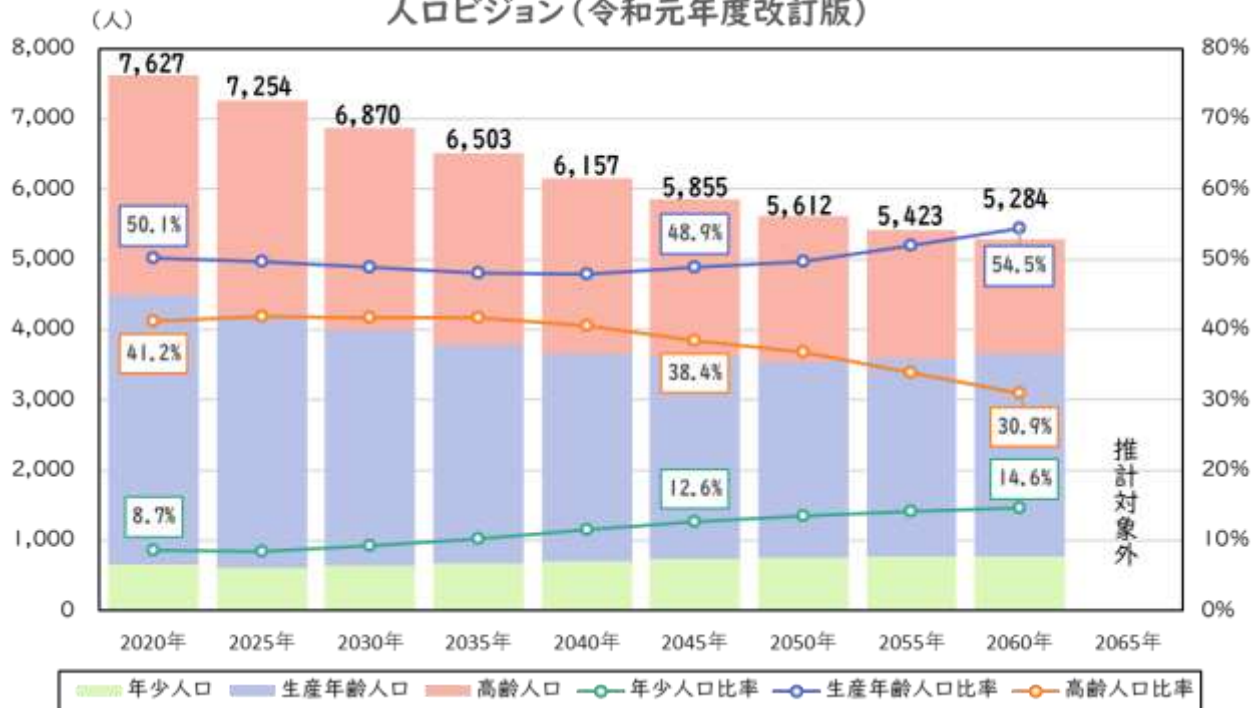
※社人研推計準拠とは、2050年までを推計対象としている社人研による推計をベースに、社人研の設定した2050年仮定値がその後の維持されることを前提に推計対象期間を延伸した推計です。

白糠町人口ビジョン(令和元年度改訂版)による目標人口

合計特殊出生率(仮定値)



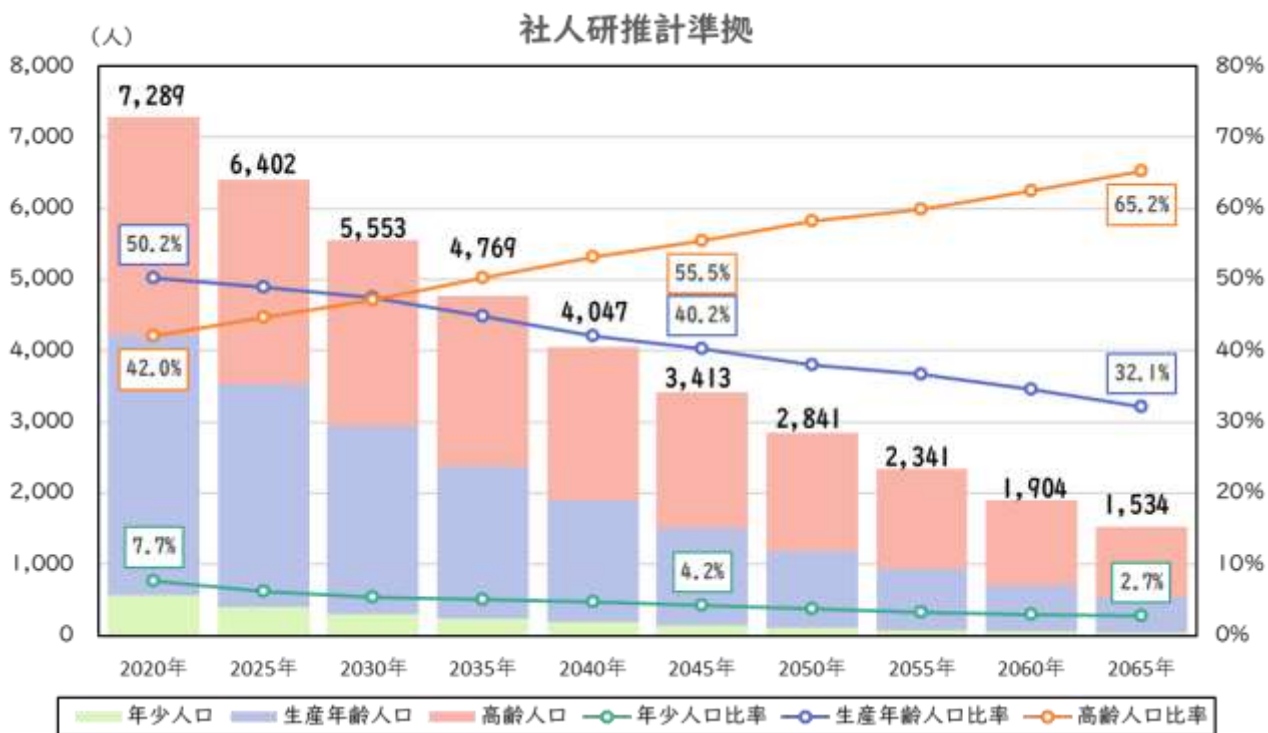
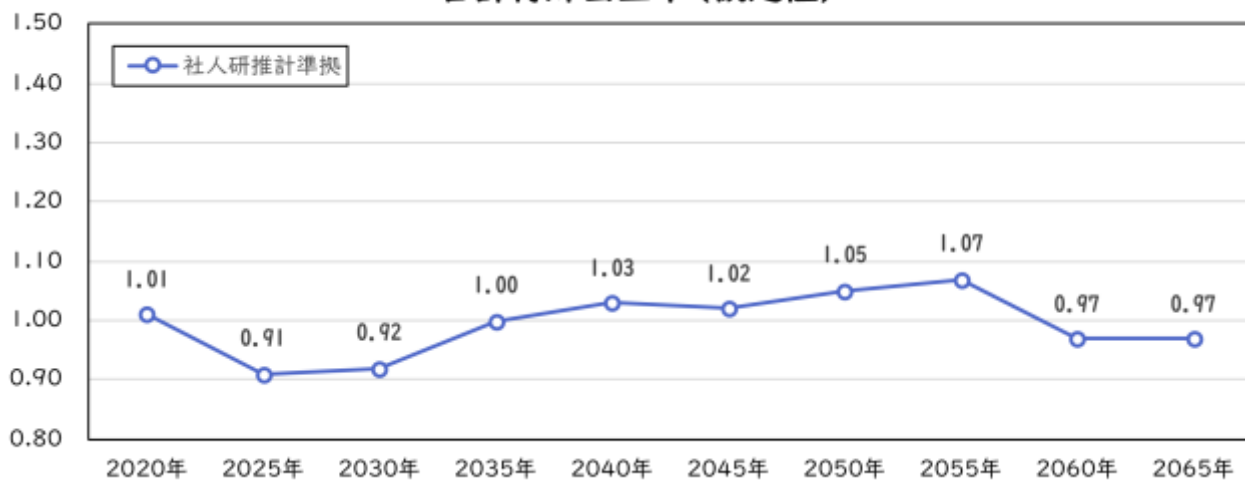
人口ビジョン(令和元年度改訂版)



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	7,627	7,254	6,870	6,503	6,157	5,855	5,612	5,423	5,284	
年少人口	661	610	639	667	705	739	759	765	772	
生産年齢人口	3,821	3,603	3,361	3,125	2,952	2,864	2,786	2,823	2,879	
高齢人口	3,145	3,041	2,870	2,711	2,500	2,250	2,067	1,835	1,633	
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
年少人口比率	8.7%	8.4%	9.3%	10.2%	11.5%	12.6%	13.5%	14.1%	14.6%	
生産年齢人口比率	50.1%	49.7%	48.9%	48.1%	47.9%	48.9%	49.6%	52.1%	54.5%	
高齢人口比率	41.2%	41.9%	41.8%	41.7%	40.6%	38.4%	36.8%	33.8%	30.9%	

社人研推計準拠

合計特殊出生率（仮定値）



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	7,289	6,402	5,553	4,769	4,047	3,413	2,841	2,341	1,904	1,534
年少人口	564	401	301	238	190	145	107	78	56	42
生産年齢人口	3,660	3,134	2,637	2,138	1,704	1,373	1,079	860	658	492
高齢人口	3,065	2,867	2,615	2,393	2,153	1,895	1,655	1,403	1,190	1,000
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
年少人口比率	7.7%	6.3%	5.4%	5.0%	4.7%	4.2%	3.8%	3.3%	2.9%	2.7%
生産年齢人口比率	50.2%	49.0%	47.5%	44.8%	42.1%	40.2%	38.0%	36.7%	34.6%	32.1%
高齢人口比率	42.0%	44.8%	47.1%	50.2%	53.2%	55.5%	58.3%	59.9%	62.5%	65.2%

(2) 人口減少による地域への影響

社人研推計準拠で想定されるような将来人口の減少が地域に与える影響については、次のように考えられます。

〈出生数の減少〉

社人研推計準拠	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
0～4歳人口(人)	136	101	82	68	51	37	27	20	14	11
変化指数	100.0	74.3	60.3	50.0	37.5	27.2	19.9	14.7	10.3	8.1

人口推計上は、0～4歳人口が5年間の出生数と捉えられます(例えば2025年の101人は2025年までの5年間の出生数)。

2020年の136人から2045年には37人、さらに2065年には11人にまで減少する見通しであり、こうした出生数の減少は白糠町の次代を担う世代の存続を危うくさせるものであり、危惧すべき事態です。

〈年少人口の減少〉

社人研推計準拠	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
年少人口(人)	564	401	301	238	190	145	107	78	56	42
年少人口比率	7.7%	6.3%	5.4%	5.0%	4.7%	4.2%	3.8%	3.3%	2.9%	2.7%

年少人口(0～14歳人口)についても、2020年の564人から2045年には145人、2065年には42人にまで減少することが想定されます。

年少人口は、概ね中学生くらいまでの年齢層を含んでおり、こうした年齢層の急激な減少は、町内の保育関係施設や小学校・中学校の規模・環境水準等の維持が難しいものとなっていくことが十分に考えられます。

〈若年女性人口の減少〉

社人研推計準拠	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
若年女性人口(人)	518	423	346	263	190	137	100	71	56	44
変化指数	100.0	81.7	66.8	50.8	36.7	26.4	19.3	13.7	10.8	8.5

近年では、人口問題を考える上で、若年女性(20～30歳代の女性)人口の動向が着目されています。

民間機関である戦略人口会議が“消滅可能性自治体”として定義しているのは、この若年女性人口が30年後の2050年までに半数以下にまで減少する自治体であり、白糠町についても2020年の518人に対して2050年には100人と8割以上の減少が見込まれている状況です。

若年女性人口の減少を抑制することが、上記の出生数や年少人口の減少抑制につながります。

〈生産年齢人口の減少〉

社人研推計準拠	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
生産年齢人口(人)	3,660	3,134	2,637	2,138	1,704	1,373	1,079	860	658	492
生産年齢人口比率	50.2%	49.0%	47.5%	44.8%	42.1%	40.2%	38.0%	36.7%	34.6%	32.1%

生産年齢人口(15～64歳人口)は、2020年の3,660人から2045年には1,373人、2065年には492人にまで減少することが想定されています。

こうした生産年齢人口の減少は、若者世代を中心とする町外転出による影響であり、長期的視点からは出生数や年少人口の減少による影響とも言えます。

生産年齢人口は、産業の担い手・働き手として、また、消費者として町の活力を生み出す重要な年齢層であり、生産年齢人口の減少は町内産業や住民税収の縮小につながるということが想定されます。

〈高齢人口の減少と高齢人口比率の増加〉

社人研推計準拠	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
高齢人口(人)	3,065	2,867	2,615	2,393	2,153	1,895	1,655	1,403	1,190	1,000
高齢人口比率	42.0%	44.8%	47.1%	50.2%	53.2%	55.5%	58.3%	59.9%	62.5%	65.2%

高齢人口(65歳以上人口)も今後減少していくことが見込まれていますが、総人口に占める高齢人口比率(高齢化率)は2020年の42.0%から2035年には50.2%と半数以上を占め、さらに2065年には65.2%と概ね3人に2人が高齢者という状況になることが想定されます。

高齢者人口の減少から、今後の介護需要等の大きな増大は想定し難い一方で、高齢人口比率の増加と上記の生産年齢人口比率の減少により、高齢者一人を支える担い手が今後も縮小していくことになります。

2. 将来人口シミュレーション

(1) 将来人口シミュレーションの考え方

社人研推計準拠は、現時点で想定される白糠町の将来人口として捉えられる一方で、2020年までの国勢調査結果を踏まえた推計であり、2020年以降の直近の人口動向が反映されていません。

そこで、ここでは2020年以降の白糠町の人口動向を反映させつつ、社人研推計準拠から想定される人口減少が地域に与える影響を踏まえ、出生の改善や転出抑制を含めた移動の改善という視点から次の2つのシミュレーションを行います。

シミュレーション	仮定概要
ケース1 (出生改善&移動均衡)	〈出生に関する仮定〉 ◇2020年の人口構造等から算出される合計特殊出生率1.01を起点として、これが2060年までに1.40にまで改善することを仮定 〈死亡に関する仮定〉 ◇社人研による生残率仮定値を採用 〈移動に関する仮定〉 ◇2020年以降の白糠町の人口動向を反映させた純移動率を算出の上、これを起点に移動状況が徐々に改善し、2040年までに移動均衡となることを仮定
ケース2 (出生改善&転入超過)	〈出生に関する仮定〉 ◇2020年の人口構造等から算出される合計特殊出生率1.01を起点として、これが2060年までに1.40にまで改善することを仮定 〈死亡に関する仮定〉 ◇社人研による生残率仮定値を採用 〈移動に関する仮定〉 ◇2020年以降の白糠町の人口動向を反映させた純移動率を算出の上、これを起点にしつつ、2025年以降は年間30人(推計上は5年間で150人)の転入超過となることを仮定 ◇転入超過150人の仮定内訳 5～19歳(5歳階層ごとに男5人、女5人) 20～49歳(5歳階層ごとに男10人、女10人)

(2) 将来人口シミュレーション

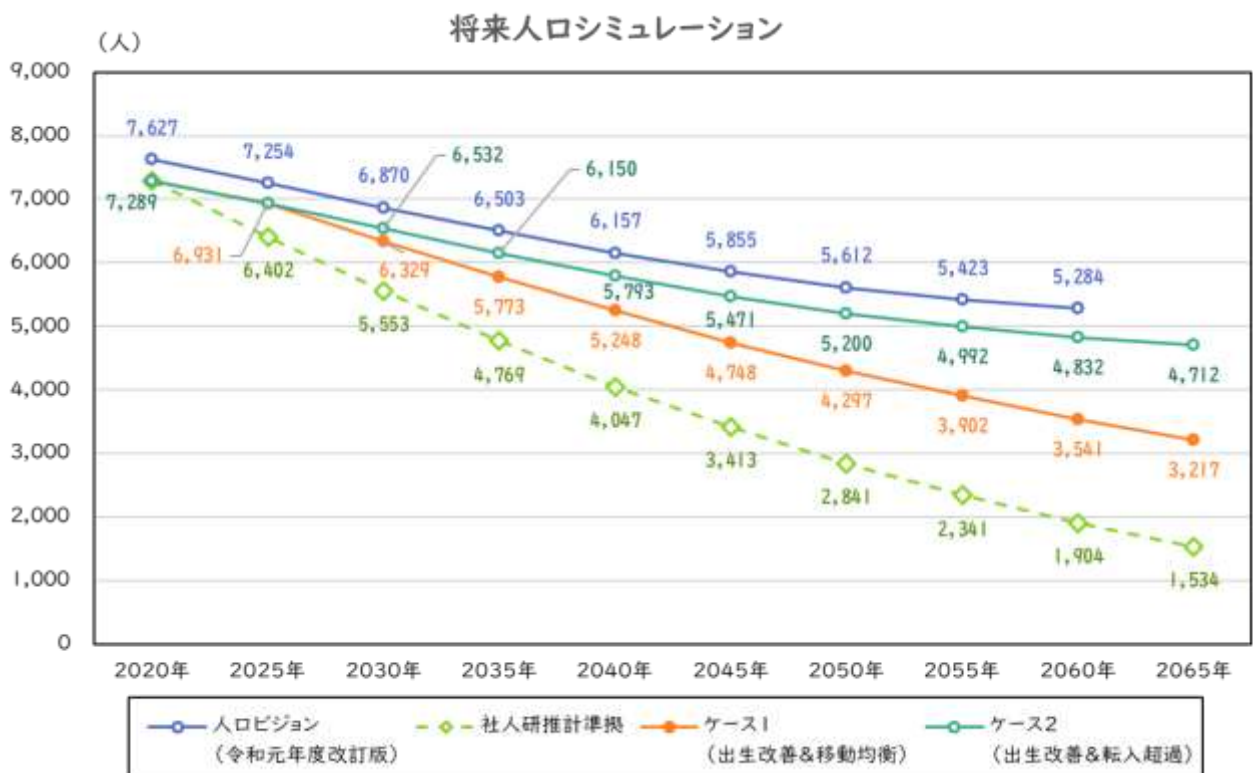
将来人口シミュレーションの結果は次のとおりです。

出生改善と移動均衡を仮定したケース1では、2065年時点で社人研推計準拠による将来人口の2倍以上の3,217人を維持することが見込まれます。

また、出生改善と2025年以降の速やかな転入超過（5年間で150人）を仮定したケース2では、2065年時点で4,712人の人口が見込まれます。

ケース1が2040年までに移動均衡となることを仮定しているのに対し、ケース2では2025年以降の速やかな転入超過（5年間で150人）を仮定しているため、当然のことながらケース2の方が将来人口は大きい結果となっています。

しかし、全国的な人口減少を背景に今後予測される全国的な人口移動総量の縮小を前提とすると、ケース2で仮定したような2025年以降の速やかな転入超過の実現やさらにその長期的な持続を実現することは、極めて困難であるとも言えます。



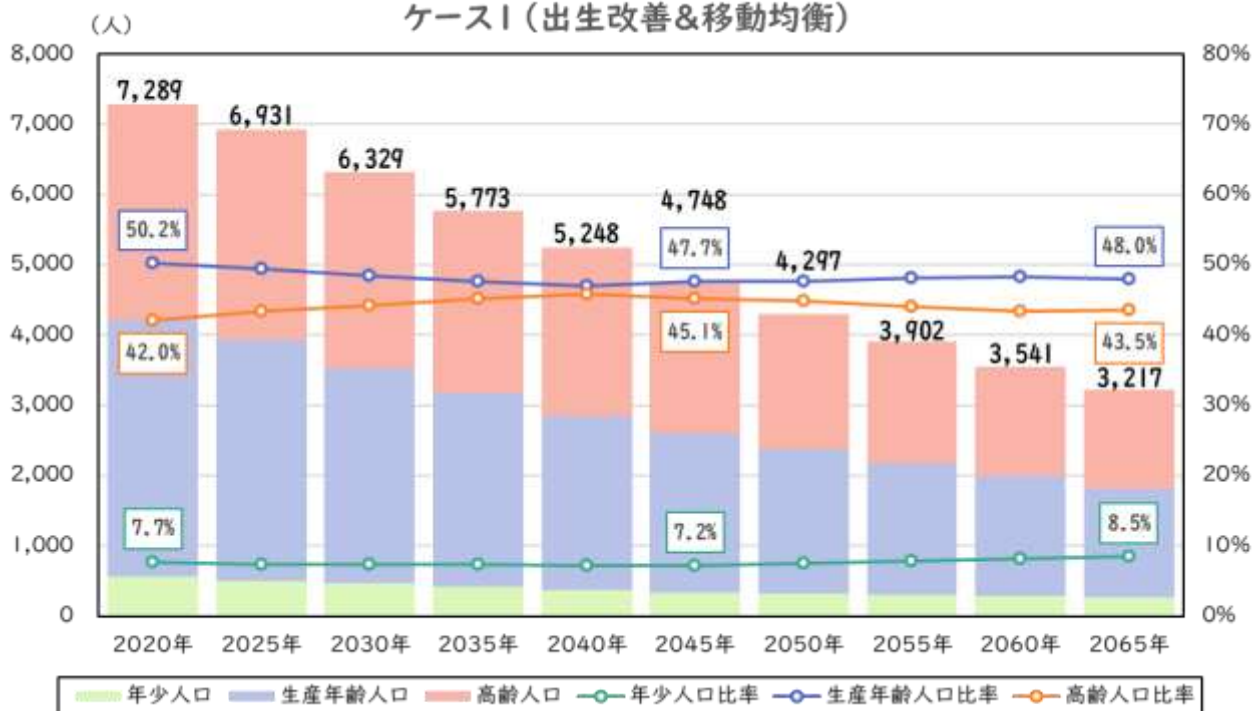
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
人口ビジョン (令和元年度改訂版)	7,627	7,254	6,870	6,503	6,157	5,855	5,612	5,423	5,284	
社人研推計準拠	7,289	6,402	5,553	4,769	4,047	3,413	2,841	2,341	1,904	1,534
ケース1 (出生改善&移動均衡)	7,289	6,931	6,329	5,773	5,248	4,748	4,297	3,902	3,541	3,217
ケース2 (出生改善&転入超過)	7,289	6,931	6,532	6,150	5,793	5,471	5,200	4,992	4,832	4,712

ケースⅠ（出生改善&移動均衡）

合計特殊出生率（仮定値）



ケースⅠ（出生改善&移動均衡）



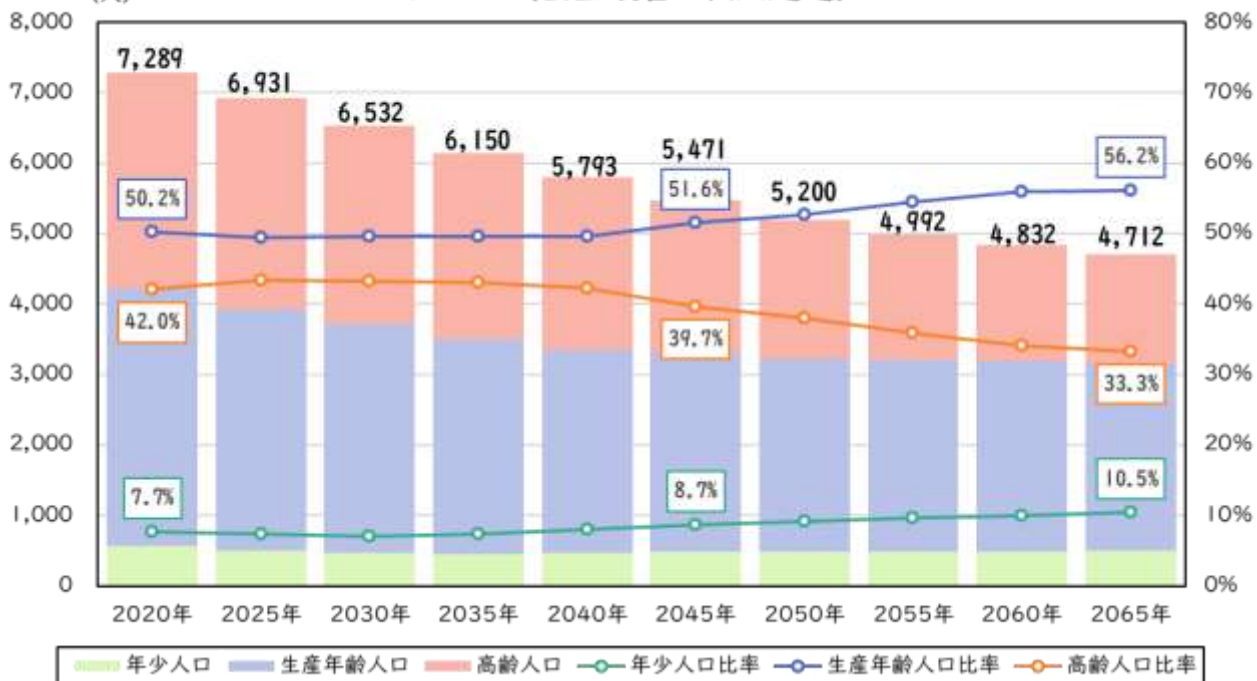
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	7,289	6,931	6,329	5,773	5,248	4,748	4,297	3,902	3,541	3,217
年少人口	564	506	467	421	374	343	322	307	292	274
生産年齢人口	3,660	3,422	3,065	2,747	2,469	2,263	2,046	1,877	1,710	1,543
高齢人口	3,065	3,003	2,797	2,605	2,405	2,142	1,929	1,718	1,539	1,400
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
年少人口比率	7.7%	7.3%	7.4%	7.3%	7.1%	7.2%	7.5%	7.9%	8.2%	8.5%
生産年齢人口比率	50.2%	49.4%	48.4%	47.6%	47.0%	47.7%	47.6%	48.1%	48.3%	48.0%
高齢人口比率	42.0%	43.3%	44.2%	45.1%	45.8%	45.1%	44.9%	44.0%	43.5%	43.5%

ケース2（出生改善&転入超過）

合計特殊出生率（仮定値）



ケース2（出生改善&転入超過）



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	7,289	6,931	6,532	6,150	5,793	5,471	5,200	4,992	4,832	4,712
年少人口	564	506	464	451	468	477	479	479	485	494
生産年齢人口	3,660	3,422	3,242	3,050	2,877	2,822	2,740	2,724	2,703	2,647
高齢人口	3,065	3,003	2,826	2,649	2,448	2,172	1,981	1,789	1,644	1,571
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
年少人口比率	7.7%	7.3%	7.1%	7.3%	8.1%	8.7%	9.2%	9.6%	10.0%	10.5%
生産年齢人口比率	50.2%	49.4%	49.6%	49.6%	49.7%	51.6%	52.7%	54.6%	55.9%	56.2%
高齢人口比率	42.0%	43.3%	43.3%	43.1%	42.3%	39.7%	38.1%	35.8%	34.0%	33.3%

第4章 将来展望

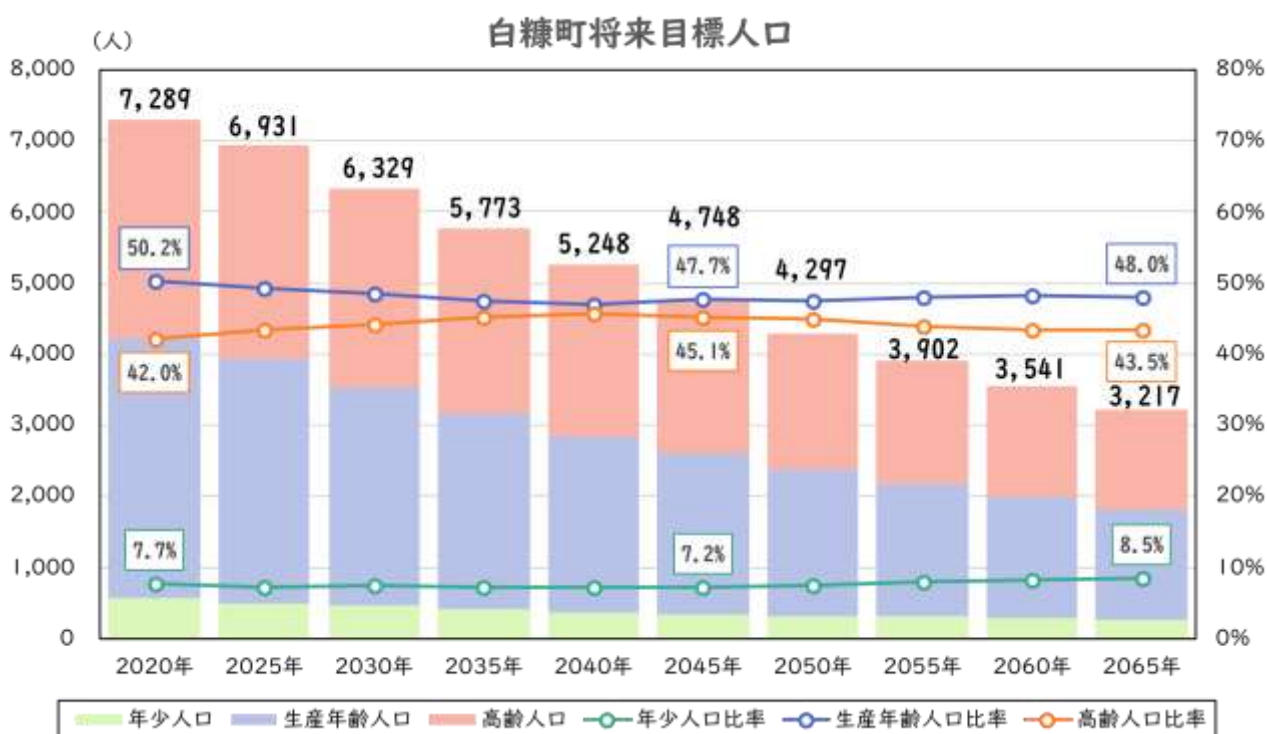
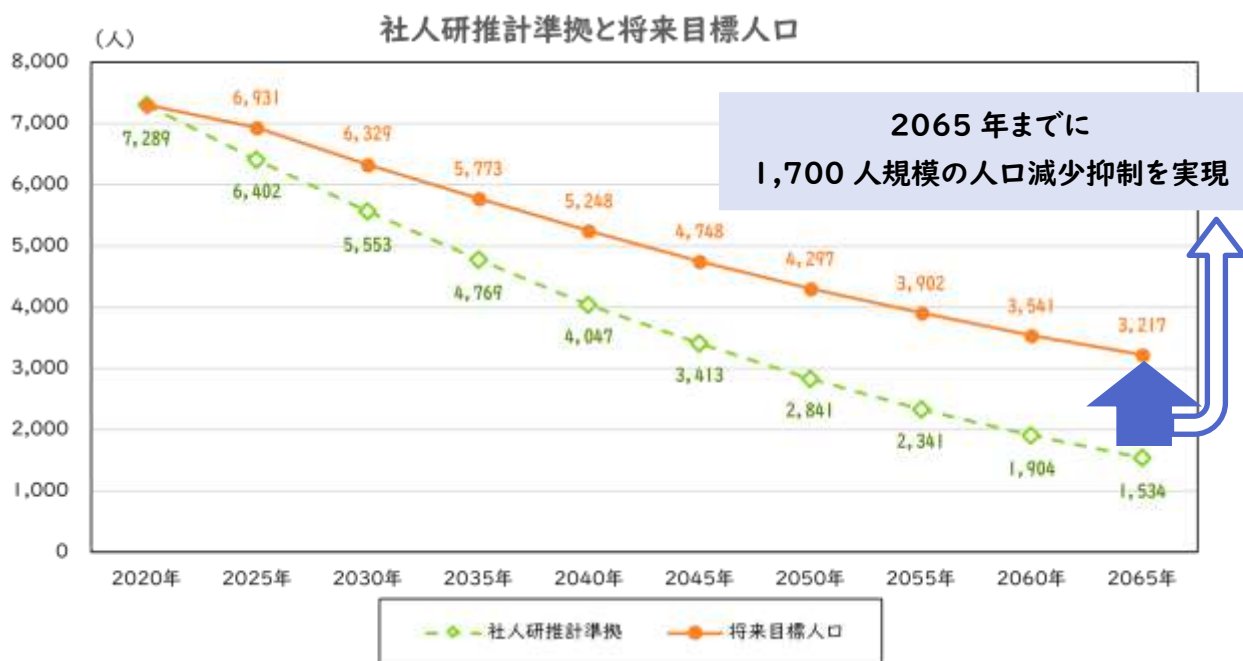
1. 将来目標人口

将来人口シミュレーションを踏まえ、40年後の2065年において3,200人規模を維持することを目標とします。

2060年までに合計特殊出生率を1.40にまで改善

2040年までに社会移動を均衡

2065年の総人口として
3,200人規模を維持



人口	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	7,289	6,931	6,329	5,773	5,248	4,748	4,297	3,902	3,541	3,217
0～14歳	564	506	467	421	374	343	322	307	292	274
15～64歳	3,660	3,422	3,065	2,747	2,469	2,263	2,046	1,877	1,710	1,543
20～39歳	1,046	1,042	985	910	821	738	666	604	534	481
65歳以上	3,065	3,003	2,797	2,605	2,405	2,142	1,929	1,718	1,539	1,400
75歳以上	1,575	1,735	1,784	1,688	1,563	1,434	1,304	1,149	1,032	905
男	3,414	3,241	2,935	2,669	2,424	2,196	1,997	1,825	1,670	1,528
0～14歳	300	263	247	216	191	176	165	157	149	140
15～64歳	1,812	1,707	1,535	1,394	1,263	1,159	1,047	972	891	806
20～39歳	528	524	511	475	440	397	350	319	274	246
65歳以上	1,302	1,271	1,153	1,059	970	861	785	696	630	582
75歳以上	605	657	688	654	583	523	477	425	394	343
女	3,875	3,690	3,394	3,104	2,824	2,552	2,300	2,077	1,871	1,689
0～14歳	264	243	220	205	183	167	157	150	143	134
15～64歳	1,848	1,715	1,530	1,353	1,206	1,104	999	905	819	737
20～39歳	518	518	474	435	381	341	316	285	260	235
65歳以上	1,763	1,732	1,644	1,546	1,435	1,281	1,144	1,022	909	818
75歳以上	970	1,078	1,096	1,034	980	911	827	724	638	562

人口構成比	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	7.7%	7.3%	7.4%	7.3%	7.1%	7.2%	7.5%	7.9%	8.2%	8.5%
15～64歳	50.2%	49.4%	48.4%	47.6%	47.0%	47.7%	47.6%	48.1%	48.3%	48.0%
20～39歳	14.4%	15.0%	15.6%	15.8%	15.6%	15.5%	15.5%	15.5%	15.1%	15.0%
65歳以上	42.0%	43.3%	44.2%	45.1%	45.8%	45.1%	44.9%	44.0%	43.5%	43.5%
75歳以上	21.6%	25.0%	28.2%	29.2%	29.8%	30.2%	30.3%	29.4%	29.1%	28.1%
男	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	8.8%	8.1%	8.4%	8.1%	7.9%	8.0%	8.3%	8.6%	8.9%	9.2%
15～64歳	53.1%	52.7%	52.3%	52.2%	52.1%	52.8%	52.4%	53.3%	53.4%	52.7%
20～39歳	15.5%	16.2%	17.4%	17.8%	18.2%	18.1%	17.5%	17.5%	16.4%	16.1%
65歳以上	38.1%	39.2%	39.3%	39.7%	40.0%	39.2%	39.3%	38.1%	37.7%	38.1%
75歳以上	17.7%	20.3%	23.4%	24.5%	24.1%	23.8%	23.9%	23.3%	23.6%	22.4%
女	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	6.8%	6.6%	6.5%	6.6%	6.5%	6.5%	6.8%	7.2%	7.6%	7.9%
15～64歳	47.7%	46.5%	45.1%	43.6%	42.7%	43.3%	43.4%	43.6%	43.8%	43.6%
20～39歳	13.4%	14.0%	14.0%	14.0%	13.5%	13.4%	13.7%	13.7%	13.9%	13.9%
65歳以上	45.5%	46.9%	48.4%	49.8%	50.8%	50.2%	49.7%	49.2%	48.6%	48.4%
75歳以上	25.0%	29.2%	32.3%	33.3%	34.7%	35.7%	36.0%	34.9%	34.1%	33.3%

人口変化指数(2020年値=100)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総数	100.0	95.1	86.8	79.2	72.0	65.1	59.0	53.5	48.6	44.1
0～14歳	100.0	89.7	82.8	74.6	66.3	60.8	57.1	54.4	51.8	48.6
15～64歳	100.0	93.5	83.7	75.1	67.5	61.8	55.9	51.3	46.7	42.2
20～39歳	100.0	99.6	94.2	87.0	78.5	70.6	63.7	57.7	51.1	46.0
65歳以上	100.0	98.0	91.3	85.0	78.5	69.9	62.9	56.1	50.2	45.7
75歳以上	100.0	110.2	113.3	107.2	99.2	91.0	82.8	73.0	65.5	57.5
男	100.0	94.9	86.0	78.2	71.0	64.3	58.5	53.5	48.9	44.8
0～14歳	100.0	87.7	82.3	72.0	63.7	58.7	55.0	52.3	49.7	46.7
15～64歳	100.0	94.2	84.7	76.9	69.7	64.0	57.8	53.6	49.2	44.5
20～39歳	100.0	99.2	96.8	90.0	83.3	75.2	66.3	60.4	51.9	46.6
65歳以上	100.0	97.6	88.6	81.3	74.5	66.1	60.3	53.5	48.4	44.7
75歳以上	100.0	108.6	113.7	108.1	96.4	86.4	78.8	70.2	65.1	56.7
女	100.0	95.2	87.6	80.1	72.9	65.9	59.4	53.6	48.3	43.6
0～14歳	100.0	92.0	83.3	77.7	69.3	63.3	59.5	56.8	54.2	50.8
15～64歳	100.0	92.8	82.8	73.2	65.3	59.7	54.1	49.0	44.3	39.9
20～39歳	100.0	100.0	91.5	84.0	73.6	65.8	61.0	55.0	50.2	45.4
65歳以上	100.0	98.2	93.3	87.7	81.4	72.7	64.9	58.0	51.6	46.4
75歳以上	100.0	111.1	113.0	106.6	101.0	93.9	85.3	74.6	65.8	57.9

2. 将来目標人口に基づく将来展望

将来目標人口の実現により、社人研推計準拠で見通される状況に比べて、2065年時点においてどのような変化が展望されるかを示すと次のとおりです。

1,700人規模の人口減少抑制(2065年:1,534人⇒3,217人)

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口 (人)	社人研推計準拠	7,289	6,402	5,553	4,769	4,047	3,413	2,841	2,341	1,904	1,534
	目標人口	7,289	6,931	6,329	5,773	5,248	4,748	4,297	3,902	3,541	3,217
変化指数	社人研推計準拠	100.0	87.8	76.2	65.4	55.5	46.8	39.0	32.1	26.1	21.0
	目標人口	100.0	95.1	86.8	79.2	72.0	65.1	59.0	53.5	48.6	44.1

出生数の減少を抑制

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
0～4歳 人口 (人)	社人研推計準拠	136	101	82	68	51	37	27	20	14	11
	目標人口	136	133	129	123	113	107	102	98	92	84
変化指数	社人研推計準拠	100.0	74.3	60.3	50.0	37.5	27.2	19.9	14.7	10.3	8.1
	目標人口	100.0	97.8	94.9	90.4	83.1	78.7	75.0	72.1	67.6	61.8

年少人口比率が2040年以降は増加基調に転換

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
年少人口 (人)	社人研推計準拠	564	401	301	238	190	145	107	78	56	42
	目標人口	564	506	467	421	374	343	322	307	292	274
年少人口 比率	社人研推計準拠	7.7%	6.3%	5.4%	5.0%	4.7%	4.2%	3.8%	3.3%	2.9%	2.7%
	目標人口	7.7%	7.3%	7.4%	7.3%	7.1%	7.2%	7.5%	7.9%	8.2%	8.5%

若年女性人口の減少緩和により消滅可能性自治体からの脱却

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
若年女性 人口 (人)	社人研推計準拠	518	423	346	263	190	137	100	71	56	44
	目標人口	518	518	474	435	381	341	316	285	260	235
変化指数	社人研推計準拠	100.0	81.7	66.8	50.8	36.7	26.4	19.3	13.7	10.8	8.5
	目標人口	100.0	100.0	91.5	84.0	73.6	65.8	61.0	55.0	50.2	45.4

生産年齢人口比率の減少傾向の緩和（概ね現状の構成比を維持）

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
生産年齢人口 (人)	社人研推計準拠	3,660	3,134	2,637	2,138	1,704	1,373	1,079	860	658	492
	目標人口	3,660	3,422	3,065	2,747	2,469	2,263	2,046	1,877	1,710	1,543
生産年齢人口比率	社人研推計準拠	50.2%	49.0%	47.5%	44.8%	42.1%	40.2%	38.0%	36.7%	34.6%	32.1%
	目標人口	50.2%	49.4%	48.4%	47.6%	47.0%	47.7%	47.6%	48.1%	48.3%	48.0%

高齢人口比率が 2040 年以降は減少に転換

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
高齢人口 (人)	社人研推計準拠	3,065	2,867	2,615	2,393	2,153	1,895	1,655	1,403	1,190	1,000
	目標人口	3,065	3,003	2,797	2,605	2,405	2,142	1,929	1,718	1,539	1,400
高齢人口比率	社人研推計準拠	42.0%	44.8%	47.1%	50.2%	53.2%	55.5%	58.3%	59.9%	62.5%	65.2%
	目標人口	42.0%	43.3%	44.2%	45.1%	45.8%	45.1%	44.9%	44.0%	43.5%	43.5%

- 全国多くの自治体同様、長期的な人口減少は避けられないものの、出生改善と移動均衡を実現させれば、少子高齢化を抑制することができます。
- 町としての人口規模は現在よりも縮小したとしても、高齢化の抑制等を通じて、町の人口構造を現在よりも改善することができます。
- 人口構造を現在よりも望ましい状況に少しずつでも近づけていくことが重要です。
- こうした人口減少抑制を実現させる視点とともに、今後は、長期的な人口減少と人口構造の改善を踏まえたまちづくり、言い換えれば、人口減少への適応の視点もより重要になってきます。
- 人口規模が現在よりも小さくなりつつも、人口構造は現在よりも望ましいものとなっている将来の白糠町を展望しつつ、将来の人口規模・人口構造に適応できるよう、これからの地域のあり方を考えていくことが望まれます。

白糠町人口ビジョン

発行年月：令和7年（2025年）3月

発 行：白糠町